

並ニ(二)及ヒ(三)ノ場合ニ在リテハ保險契約者ハ何時ニテモ保險金受取人ヲ變更
又ハ指定スルコトヲ得ルナリ

生存保險ニ於テハ被保險者生存ノ場合ニ自ラ保險金ヲ受取ルヲ得ルカ故ニ通
常本人ヲ以テ受取人トス然レトモ他人ヲ指定シテ受取人トスルコトモ法律上
支障ナキモノトス

我國ノ法律カ前記ノ如ク死亡保險金受取人ヲ被保險者ノ相續人又ハ其同意ア
ル者ト限定シタルハ獨逸法ノ主義ニ倣ヒタルモノニシテ英國法ハ生命保險ニ
モ海上火災等ノ保險ニ於ケルト同シク金錢的保險利益(Pecuniary interest)ノ主
義ヲ執リ即チ保險金受取人ハ被保險者ト經濟的利害關係ヲ有スルヲ要ストセ
リ勿論親子夫妻兄弟姉妹等ノ近親間ニ在リテハ金錢利益ノ關係アリト推定セ
ラレ特ニ證明ヲ要求セサルモ債權者ト債務者備主ト被備者學資供給者ト學生
等ノ間ニ在リテハ其關係ヲ證明セサルヘカラス而シテ生命保險契約締結ノ際
ニハ此ノ如キ嚴重ナル制限アルニモ拘ハラズ一旦保險契約ノ成立シタル上ハ
保險金ヲ受取ルヘキ權利ハ何人ニモ之ヲ讓渡スコトヲ許シ保險契約ノ證據タ

ル保險證券ハ往往競賣ニ依リテ轉轉スルコトアリ故ニ保險金受取人ハ保險證
券ヲ所持スル者ニシテ之ヲ「ボリシ、ホールダ」(證券所持人)ト稱ス證券ヲ善意
有償ニ讓受ケタル者ハ被保險者ノ死亡ニ就キ被保險利益ヲ有ストノ見解ニ出
ツルナリ米國モ亦此主義ヲ襲ヘリ

保險金額ヲ受取ルヘキ者ハ生命保險ノ利益ヲ享受スル者ナルヲ以テ英語ニテ
之ヲ「利益享受者(Beneficiary)」ト稱ス生命保險ノ目的ハ最多クノ場合ニ無援ノ遺
族ヲ扶持スルノ用意タルニ在ルヲ以テ諸外國ニ於テハ其權利ヲ保護スルニ力
メ被保險者ノ債務ノ爲メニ之カ侵害ヲ受クルコト無キ趣旨ノ法律ヲ設ケタル
所多シ我國ニ於テモ簡易生命保險法ニ在リテハ特ニ其社會的性質ヨリシテ保
險金ハ差押フルコトヲ得サル旨ヲ規定シタレハ遠カラス一般生命保險ニモ及
フニ至ルヘシ又家族ノ爲メニ其收入ノ一部ヲ割キテ保險的豫備ヲ行フ奇特ナ
ル行爲ヲ保護獎勵スル爲メニ收入ノ相當ナル部分(例ヘハ英國ハ六分ノ一)ヲ限
度トシテ之ヲ所得稅賦課ノ標準額ヨリ控除スル旨ノ立法アリ我國ニ於テモ今
回議會ニ於テ所得稅法ヲ改正シ年收二千圓以内ノ者ニ對シテハ家庭ノ生命保
險料二百圓マテヲ所得ヨリ控除シ得ルトシ大正十三年度ヨリ實施スルコトト

第二節 生命保險契約ノ申込

今吾人カ自己又ハ第三者ノ生命ニ就テ保險契約ヲ結ハント欲スルトキハ其希望スル所ノ會社ヨリ申込書用紙 (Application form) ナルモノヲ得之ニ必要ナル事項ヲ記入シテ會社ニ提出スルヲ要ス其記入事項ハ生存保險ニ在リテハ割合簡單ナレトモ死亡保險ニ在リテハ相當複雑ナリ是レ後者ハ保險者ヲシテ人生ニ最不慮ニシテ且保險者ニ取リテ重大ナル支拂義務ヲ負擔セシムルモノナレハ保險者カ此引受ヲ爲スニ際シテハ被保險者ノ健康其他ノ重要事項ニ關シ充分ノ知悉ヲ必要トスレハナリ依テ茲ニハ專ラ死亡保險ニ就テ申込ノ順序ヲ説明セント欲ス

保險申込書用紙ニハ凡ソ左ノ事項ニ關スル不動文字ヲ印刷シタル欄行ノ設アリ其下部ニ必要ナル事實ヲ記入シテ告知スルモノトス

(一) 被保險者ノ氏名、年齢、性、住所、本籍、職業、家族ニ於ケル地位

是等ノ諸項ハ危險測定ノ必要ヨリハ寧ロ被保險生命ヲ確認スル爲メノ重要事項ニシテ生命保險ニハ往往換玉ト稱シ本人ニ非サル者ヲ示シテ契約ヲ締結セシムル如キ惡行アリ西洋ニ於テハ Identification ト稱シ保險申込書ニ被保險者ノ氏名ヲ自署セシメ(勸誘員ノ面前ニテ)又身體診査ヲ受クル本人ヲシテ醫師ノ面前ニ於テ自署セシメ兩者ノ一致ヲ認定スル方法ヲ採ルコトアリ、年齢ハ保險料表ニ照合シテ其額ヲ定ムルニ必要ナル事項タルハ言ヲ俟タス又家族ニ於ケル地位トハ家長主婦家族等ノ詳細ニシテ之ヲ以テ保險契約ノ動機ヲ窺知シ申込保險金額ノ合理ナルヤヲ確メ人意的危險ノ潜在ヲ辨知スルノ具ニ供ス、而シテ職業ハ主トシテ外的危險ノ程度ヲ別ツ標準トナリ西洋ニ於テハ相當之ニ重量ヲ置キ酒類販賣者ノ如キハ拒絕スル會社アリト雖トモ我國ノ業者ハ從來之ヲ重要視セス其變更ニ對シテモ何等問フ所ナキヲ見レハ危險測定上ノ重要事項トセサルカ如シ

(二) 保險金受取人ニ關スル事項

保險金受取人ヲ特ニ指定スルヤ單ニ被保險者ノ相續人トスルヤ又ハ自己ヲ

受取人トスルヤ後ニ保險契約者カ任意ニ之ヲ變更又ハ指定シ得ルヤ否ヤ並ニ指定セラレタル受取人ト被保險者ノ關係ヲ記載セシム本項モ亦危險測定上大ナル價值アリト言フヘカラス

(三) 他ノ生命保險契約ニ關スル事項

被保險者ノ生命ニ付キ他ノ保險者ヘ保險ヲ申込ミタルノ有無及ヒ契約ノ成否並ニ現ニ契約セル保險金額及ヒ社名等ヲ記入セシムルモノニシテ以テ人意的危險ノ伏在ヲ探リ又他會社ト照會ノ利便ヲ期ス故ニ危險測定ト若干ノ交渉ヲ有スル事項ナリ又往往被保險者ノ戸主又ハ家族カ他ニ生命保險契約ヲ締結シ居ルヤ否其内容等ヲ記入セシムルモノアリ是亦家族ノ保險能力ヲ量リテ人意的危險ニ注意セントスルカ爲メナリ

(四) 被保險者ノ病歴及ヒ其主治醫並ニ常聘醫ノ氏名住所

被保險者既往ノ疾患カ現在ノ健康並ニ將來ノ疾病機會ニ重要ナル關係アルハ無論ニシテ前章保險醫事中ニ之ヲ掲ケタル所ナリ醫師ノ氏名住所ハ保險者ノ索引ニ資スル參考資料ナリ故ニ會社ニ由リテハ尙是等ノ醫師ヘ被保險

者ノ健康狀態ヲ聞合スモ異議ナキヤヲ問フコトアリ

(五) 被保險者ノ血族關係

血族者ノ命壽疾病等カ本人ノ命壽ニ多大ノ關係ヲ有スルコトハ明白ナル事實ナルヲ以テ之ヲ記載セシムルナリ即チ父母祖父母兄弟姉妹及ヒ子女ノ生死年齡健否死因死後年數ノ詳細ヲ答ヘシムルモノトス

(六) 配偶關係

配偶者ノ不健康就中肺病ニ罹レル場合若クハ死因カ該病ナル場合ノ如キハ本人ニ影響スルコト少カラサルヲ以テ之ヲ告知セシムルナリ

(七) 兵役關係

男子ニ在リテハ徵兵検査ニ合格セシヤ否ヤヲ尋ネ以テ健康度ヲ測知シ又現在現役豫後備等ニ在ルヤ否ヤヲ問ヒテ戰時危險ノ有無ヲ知ラントス但本項ハ甚重要ナリト言フ能ハサルナリ

以上七項ハ保險契約申込書中ニ必ラス記載セシムル事項ナレトモ此外尙身體診查ニ際シ診查醫ニ對シテ現在健康ノ自覺飲酒喫煙ノ程度女子ニ在リテハ妊

娠ノ有無及ヒ娩産ノ經過其他既往ノ著患等ニ就キ質問ニ答ヘシム是レ女子娩産ノ困難又ハ豫後不良ナルハ警戒スヘキモノニシテ初妊婦ハ保險會社ニ於テ一般ニ契約ヲ見合スコトトセルカ爲メナリ此答辯ノ大略ヲ用紙上ニ記載シ申込書ノ附屬書面トスル會社アリ

此二種ノ書面上ニ掲ケタル數多ノ事項ハ保險契約者及ヒ被保險者カ誠實ニ告知スヘキモノニシテ我商法第四百二十九條ニハ「保險契約ノ當時保險契約者又ハ被保險者カ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ重要ナル事實ヲ告ケス又ハ重要ナル事項ニ付キ不實ノ事ヲ告ケタルトキハ保險者ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但保險者カ其事實ヲ知り又ハ過失ニ因リテ之ヲ知ラサリシトキハ此限ニ在ラス」ト規定セリ而シテ前記諸事項カ悉ク此規定ニ所謂重要ナル事項ナリヤト言フニ必シモ然ラサルコトハ前記ノ説明ニ依リテ知ルヲ得ヘシ要スルニ保險者ヲシテ保險契約ノ諾否ヲ決セシムル資料即チ危險測定ニ必要ナル事項ヲ重要事項トスルモノタリ保險契約者及ヒ被保險者法律能力ヲ有スルハ此告知ニ羈束セララルヲ以テ俗ニ之ヲ告知義務ト稱ス保險申込書及ヒ附屬書面ニハ保險

契約者及ヒ被保險者記名捺印シ且前記告知事項ノ確實ナルコトヲ誓約スル旨ヲ記セシム

告知義務ハ保險契約上ノ最重要ナル事項ニシテ獨逸ニテハ之ヲ *Anzeigspflicht* (告知義務)ト稱シ英米ニテハ *Warranties* 及ヒ *Representation*ノ名稱アリ「レブレゼンターション」ハ開陳又ハ陳示ト譯スヘク英米ニ於テモ保險者ノ質問ニ對スル相手方ノ答辯即チ開陳ハ無論眞實ニシテ本人ヲ拘束シ之カ不眞實ナリセハ保險上ノ利益ヲ失フヘキハ當然ノ歸結ナルモ法庭ノ判例ニ於テハ兎角被保險者ヲ保護スルノ傾向アリ當ニ被保險者ニ *Benefit of doubt* (事實ノ疑シキ場合ニハ被保險者ノ有利ニ解スルノ義)ヲ與フルノミナラス事實ノ眞實ナルヤ否ヤヲ偏重シテ意思ヲ顧ミス即チ保險契約者ノ道義的責任ヲ輕視スルノ結果ニ陥レルヨリ斯業者カ所謂誓約(若クハ保證)條項 (*Warranty clause*)ナルモノヲ用ヒ保險申込者ヲシテ特ニ其開陳事項中ノ重要ナルモノ例ヘハ現在健康ニ對スル眞實ヲ保證誓約セシメ若シ之カ不實ナリセハ保險契約ハ無効トナリテ異議ナシト言フカ如キ明示ノ契約ヲ締結セシムル習慣ヲ作ルニ至レリ健康ノ特約 (*Warranty of health*)ト

稱スルモノノ如キ即チ之ナリ

六八〇

我國ニ於テモ告知義務カ保險契約ノ德性的本質ヲ離脱シテ物質的危險測定ニノミ交渉ヲ有スルモノト解セラルル傾アレトモ是レ保險制度ノ本質ニ反シ人生社會ノ向上ニ悖ルノ見解ナリ抑保險制度ハ人類社會生活ノ理想ニシテ團體員ハ互助ノ精神ト正義公平ノ原則ニ依リテ支配セラレサルヘカラス一人ノ不善ヲ許容スルハ多數人ノ利益ヲ害シテ團體道德ヲ蹂躪スルモノナリ被保險者ヲ偏護スルハ保險事業ヲ企業家ノ貪利的機關ト爲シタル昔時ノ遺風ナリト謂ハサルヘカラス

以上ノ如ク保險契約申込ノ手續了リ被保險者ノ身體ヲ診査シタル醫師ノ報告及ヒ主任醫ノ査定並ニ「アクチニアリ」ノ考査ヲ經テ保險會社ハ該申込ヲ受諾スヘキヤ否ヤヲ定メ之ヲ保險契約者ニ通知スルモノトス再診謝絶ノ場合ハ之ヲ措キ然ラサル場合ニハ保險契約者へ通常ノ保險料又ハ條件ヲ以テ契約ヲ承諾スヘキ旨ヲ通知シ保險契約者ヨリ第一回ノ拂込ヲ受ケテ茲ニ保險契約上ノ責任ヲ負フニ至ル而シテ此契約ノ成立ヲ證スル爲メニ保險會社ハ保險證券ヲ

作成シテ之ヲ保險契約者ニ交付ス其裏面又ハ添付書類ニ普通保險約款アリ保險者カ一般ノ契約者ニ對シテ提供應用スル所ノ共通ナル契約條項ノ謂ニシテ之ニ依リテ保險契約ノ關係者カ保險契約上ノ權利義務ヲ負フモノナレハ次ニ節ヲ改メテ之ヲ説明スヘシ

保險契約申込書保險證券及ヒ普通保險約款ノ三者ハ連合シテ保險契約ノ内容ヲ確證スルモノナレハ相互ニ之ニ對スル善良ナル諒解ヲ有スヘク分離スヘカラサルモノトセラレ例ヘハ米國ニ於テハ保險會社ハ保險證券ヲ發行スルニ方リテ必ラス保險契約者ノ提出シタル保險契約申込書ノ謄本ヲ添付スヘシト規定シ又獨逸ハ保險契約申込書用紙ニハ必ラス普通保險約款ヲ印刷スヘキ旨ヲ定メタリ是等ノ規定ハ保險會社ノ勸誘員カ往往保險契約ノ性質ヲ正當ニ説明セスシテ申込ヲ受テ申込者モ亦充分之ヲ熟知研究セスシテ漫然契約ヲ締結シテ後ニ異議ノ發生スルコトアルヲ慮リタル爲メニ設ケラレタルモノナレハ斯ル法律ノ規定ヲ俟タスシテ斯業者ハ豫メ充分ノ説明ヲ爲シタル上保險契約ノ申込ヲ爲サシメ相互ニ錯誤ナキヲ期スヘキナリ

第三節 普通保險約款

普通保險約款ニハ如何ナル事項ヲ規定スヘキヤハ第一節海上保險第七章ノ初頭ニ之ヲ説述シタル如ク我國ニ於テハ商法及ヒ保險業法ニ於ケル保險法規ニ基キテ起草セラレ其足ラサル細則並ニ自家ニ特種ナル契約事項ヲ規定シ主務官廳ノ認可ヲ受ケタルモノナリ我國ニハ先年生命保險會社協會ニ於テ起案シタル模範普通保險約款ナルモノアリ又四十餘ノ會社カ其完全ヲ競ヒテ作成シタル各自ノ約款アリト雖トモ其全部ヲ評論スルコトハ紙幅ノ許ササル所ナルヲ以テ茲ニハ其最重要ナル條項ノミヲ諸外國ノ事例ト併セテ説明スルニ止メント欲ス

第一 保險者ノ責任開始ニ關スル條項

保險契約ハ法學上諾成契約ト稱シ保險契約者カ保險契約ノ申込ヲ爲シ保險者カ之ニ承諾ノ意思表示ヲ爲シタル時ヲ以テ成立スヘキモノトス然レトモ我邦ノ習慣ニテハ保險者カ無條件又ハ條件付ニ承諾ノ意思ヲ表示シテ後之

ニ對シテ第一回保險料ヲ拂込マシムルコトト爲スカ故ニ「保險者ノ責任ハ第一回保險料ヲ領收シタル時ヨリ始マル」ト規定セリ但此習慣ト規定ニハ實際二三不便益ノ伴隨スルヲ免レス改善ノ考案ヲ促サンカ爲メニ少シク之ヲ論セン

(一) 保險契約者カ折角保險ノ申込ヲ爲シ被保險者ノ身體診査ヲモ經テ略之ニ合格ノ自覺ヲ得タルニモ拘ハラズ保險者ノ承諾ヲ得ルマテニ數日ヲ費スコト少カラズ殊ニ契約者ノ住所カ保險會社ト隔ルコト遠キニ因リ其間數十日ヲ經過スルコト例ヘハ外國會社トノ契約ニ於テ往往見ル所タリ其間ニ被保險者カ死亡シ若クハ疾病ニ罹リタル場合ニハ保險金ヲ得ル能ハス若クハ保險契約ヲ締結スルコト能ハサルナリ此ノ如キ缺點ヲ除去スル爲メニハ人格技能共ニ優秀ナル社員ヲ任用シテ之ニ即決ノ權限ヲ與フルコト火災保險ノ如クスルヲ適當ナリトセサルヘカラス

(二) 被保險者ノ診査終了後變心若クハ他會社ノ誘惑ニ因リ第一回保險料ヲ拂込マス結局保險者ヲシテ徒勞ノ損失ヲ招カシムルコト少カラス此不利益ヲ

Drop money
grace. Drop money
grace grace

免レンカ爲メニ外國會社ニ在リテハ身體診査前手附金 (Drop money) 若干ヲ徵收シ少クトモ診査ノ費用ヲ償ハシメントスル者アリ、我國ニ於テモ會社ニ依リテハ保險料ノ假領收ト稱シ本社ノ承諾ヲ條件トシテ第一回保險料ヲ領收スルコトアリ然レトモ是等ノ場合ニ在リテハ通常保險者ノ責任ハ未タ開始セサルモノナレハ被保險者側ノ不利益ハ一層甚シキヲ加ヘサルヲ得ス從テ決シテ衡平妥當ナル處置ト云フヘカラス前記即決ノ方法ハ解決ノ最良鍵ナリ米國ニ於テハ近時之ニ類似ノ方法ヲ設ケ保險者ハ一定期間内ニ限り契約ヲ拒絕シ得ル條件ヲ以テ假領收ヲ爲シ而モ死亡ニ對シテハ責任ヲ負フコトトセリ我國ノ方法ニ比スレハ數歩ヲ進メタルモノト謂フヘシ

第二 保險料拂込猶豫期間及ヒ回復期間

第二回以後ノ保險料拂込ニハ三十日六十日等ノ猶豫ヲ與ヘ其間ニ被保險者カ死亡スルモ會社ハ保險金支拂ノ責ニ任スル條項ニシテ内外共一般ニ行ハルル所タリ之ヲ猶豫期間 (Days of Grace) ト稱シ海上火災等ノ保險ニハ見サル所ナリ而シテ此期間ヲ經過シテ保險料ノ拂込無ケレハ保險契約ハ效力ヲ失フ

モ尙六箇月一箇年等ノ期間ヲ設定シテ其間ハ被保險者カ健全ナル場合ニ限り失效契約ノ回復ヲ承諾スル旨ノ條項ヲ設クルヲ常トス之ヲ回復又ハ復活期間ト稱ス

第三 保險料ノ自動的拂込

前項猶豫期間ヲ經過シテ契約ノ效力ヲ失フヘキ場合ト雖トモ解約價格カ延滞保險料額ニ充當セラルル限リハ之ヲ以テ拂込ニ充テ契約ノ效力ヲ持續セシムル方法ハ我國ニ於テモ多數會社ノ設定スル所ナリ外國ニ於テモ Unverfallbarkeit (不解除 Non-forfeiture condition) (不沒收條項) 等ノ類似ノ方法アリ以テ保險契約ノ繼續ヲ獎勵セリ

第四 癱疾條項 (Disability clause)

保險契約者カ疾病傷害等ノ結果不具癱疾者トナルトキハ爾後保險料支拂ノ義務ヲ免除スルノ條項ニシテ英米獨等皆之ヲ用フルモ我國ニ於テハ未タ其例ナシ

第五 不抗爭條項 (Incontestability or Inisputability clause, Unanfechtbarkeit)

不可爭條項トモ稱ス保險會社カ保險契約者及ヒ被保險者ノ告知義務違反其他ノ瑕疵ニ對シ保險金ヲ支拂ハサル旨ノ抗辯ヲ爲スコト無シトノ特約ニシテ生命保險契約ニ關スル爭訟ノ發生ハ被保險者ノ不幸ノミナラス斯業ノ信用ヲ害シ相互ノ不利ヲ招來スルモノナレハ外國ノ保險會社ニ在リテハ夙ニ此條項ヲ設ケタリ勿論保險契約者被保險者ノ詐欺的行爲ニマテ此特典ヲ及ホスハ公安上却テ有害ニシテ保險ノ道德的基礎ヲ壞ルモノナリトノ議論モアレハ其應用ノ範圍ハ若干制限セラレサルヘカラス我國ニ於テハ商法第四百二十九條前出ニ於テ告知義務違反ニ對スル制裁即チ保險者ノ解除權ヲ規定スルト同時ニ同條第二項ニ依リテ不抗爭ニ關スル規定ヲ設クルコト下ノ如シ曰ク「前項ノ解除權ハ保險者カ解除ノ原因ヲ知リタルトキヨリ一箇月間之ヲ行ハサルトキハ消滅ス契約ノ時ヨリ五年ヲ經過シタルトキ亦同シ」ト即チ生命保險契約カ五年ヲ經過シタル後ハ不可爭トナリ又保險者カ契約上ノ瑕疵ヲ知リタル後一箇月間解除權ヲ行ハサルトキハ之カ不可爭トナル旨ヲ定メタルナリ最近我國ノ某生命保險會社カ二十四時間主義ト唱へ被保險者

欠

欠

年八分ヲ超ユルコト無シ

第十三 利益又ハ剩餘金分配

第四章第四節第二款ニ詳述セル如ク現時ノ生命保險會社ハ株式會社タルト相互會社タルトヲ問ハス斯業ノ相互性ニ偕合スヘク利益又ハ剩餘ノ大ナル部分ヲ保險契約者ニ分配スルコトトシ之ニ關スル規定ハ詳細ニ保險約款相互會社ニ在リテハ定款中ニ掲記セラレタリ利益分配ノ豐富ナル保險契約ハ安價ニ生命保險ヲ供スルノ途ナルノミナラス又資金利用ノ方法トシテ利益多キモノナレハ契約者ハ最深ク之ニ留意スヘキモノトス

普通保險約款中ニハ尙幾多ノ必要事項ヲ包含スト雖トモ茲ニハ之ヲ省略ス詳細ハ生命保險會社ニ於テ印刷ニ付シテ備ヘラレタル約款ヲ請ヒ得テ展讀セラレヘク又其法律的解釋ニ至リテハ最近出版法學士三浦義道氏著保險法論(巖松堂發行定價四圓)等ノ専門書ヲ繙讀セラルヘシ拙著日本保險法論亦參照ヲ乞フ尙保險約款ノ綿密ナル學理的研究ハ商學博士石川文吾氏ノ時時國民經濟雜誌上ニ公ニセラルル論說ニ於テ之ヲ見ルヲ得ヘク殊ニ同氏カ最近商學研究第二

卷第二號ニ載セラレタル「普通保險約款ヨリ見タル生命保險ノ研究」ナル長篇ハ此問題ニ關スル最深奥ナル研究ナリ(同文館發行定價貳圓)

第七章 生命保險事業ノ代理機關

凡テ保險事業ハ廣キ範圍ニ亘リテ多數ノ被保險者ヲ得サルヘカラサル中ニ就テ最善ク此目的ニ適合シ得ルハ生命保險ナリトス即チ火災保險海上保險等カ繁華ナル都市資産家又ハ商賈等ニ依リテ最多ク利用セララルニ反シ生命保險ハ都市ト邊陲ヲ問ハス山間ト海濱ヲ論セス士農工商ヲ通シ貧富ノ差違ニ拘ハラス普ク需要ヲ發見スヘキモノナルカ故ニ各所ニ數多ノ機關ヲ設置スルノ必要最多シ此機關ハ即チ會社ノ支社出張所及ヒ代理店ニシテ其權限ノ大小及ヒ本社トノ法律上ノ關係ニ於テ差違アリトスルモ皆本社ニ代リテ被保險者ノ募集ヲ爲シ保險契約ノ締結ヲ媒介シ保險料ヲ集メ其他保險契約者又ハ保險金受取人ト保險會社トノ間ノ交渉ヲ取次クモノトス此機關ヲ代理人(Agent)ト稱シ西洋諸國ニ於テハ常ニ専門ノ職業ニシテ總代理人(General Agent)通常代理人(Ordinary Agent)竝ニ下級代理人(Sub-agent)ノ區別ニ依リテ地位待遇責任等ノ差違アリトスルモ皆一ノ會社ニ隸屬シ紹介料(Brokerage)ト稱スル新契約ニ對スル報酬竝ニ集金手数料(Commission)ト稱スル繼續契約ニ對スル報酬ヲ受ケ總代理人ノ如キニハ往往又會社ヨリ少カラサル手當ヲ給シテ一地方ニ於ケル會社ノ代表者タルノ體面ヲ保持セシムルコトアリ通常代理人ト雖トモ永ク會社ノ爲メニ盡瘁シタルトキハ恩給付與ノ如キ優遇ヲ受クルコトアリ又ハ支配代理人(Managing Agent)ト稱シテ地方ノ支店長出張店長ノ如ク社務ノ一部ヲ委任シテ相當ノ報酬ヲ與フルコト無キニ非ス是等人士ノ選定待遇配置監督及ヒ操縦ハ生命保險事業ノ經營中至重至大ノ事項ニシテ其當ヲ得ルト否トハ明ニ會社ノ盛衰ニ關係ヲ及ホスモノナルヲ以テ孰レノ邦國ニ於テモ生命保險會社ノ當局者ハ皆此問題ノ講究ニ苦心焦慮セリト雖トモ我國ノ現況ニ於テハ更ニ數層ノ難問アリ

第一 代理店ト募集員ノ竝立

西洋諸國ニ於テモ現今ノ代理人ハ前述ノ如ク一會社ニ專屬スル純然タル活

動家ナリト雖トモ數十年前ニ於テハ各地方ニ於テ稍名望ヲ有スル商人又ハ銀行者ニ之ヲ委託シ彼等ハ其本業ノ傍ラ會社ノ爲メニ盡力スル所アリシナリ而シテ我國ノ現狀ハ恰モ此時代ニ屬シ斯業ノ創始日未タ淺クシテ地方人士ノ保險思想更ニ發達セス會社ノ設立亦至テ新ニシテ世人ノ信用ヲ博スルニ至ラサル間ニ在リテハ自然各地方ニ於ケル資産家又ハ名望家ヲ利用シ其信用ヲ藉リテ加入者ヲ得サルヘカラサルヨリ到ル處代理店ナル者ヲ設置シ資産家名望家ニ請ヒテ之ヲ引受ケシムルト雖トモ彼等ハ殆ント皆其名義ヲ借スノミニシテ躬ラ活動斡旋スルコト無キヲ以テ會社ハ勢其使用人ヲ派遣シ之ヲシテ加入者ヲ募集セシメサルヲ得ス之ヲ募集員外交員外勤社員等ト稱シ東奔西馳實際斯業開拓ノ業ニ從フ者ハ即チ彼等ナリ是ニ於テカ斯業ノ募集機關代理機關トシテハ代理店ト募集員ノ二者竝立シ其選定操縦ノ困難ヲ倍蓰セサルヘカラサルノミカ二者往往互ニ衝突シテ彙テ會社ニ及ホスコト少カラス況ンヤ之カ爲メニ多大ノ費用ヲ要スルニ於テヲヤ是レ第一ニ斯業者ノ解決セサルヘカラサル難問題ニシテ漸漸此ノ如キ分業ヲ廢シ多少尊

信スヘキ人格ヲ有シ且實際活動シテ常ニ一地方ニ於ケル會社ノ重鎮タル代理人ヲ得ルノ方針ニ向ハサルヘカラス而シテ斯業ノ發達スルニ從ヒテ此方針ヲ實行スルコト決シテ不可能ノ事ニ非サルナリ

第二 代理店ニ適スル資産信用竝ニ教育ノ兼備セル者ヲ得ルノ困難

代理店ハ親ラ募集ニ從事セサルマテモ保險契約者ノ信用ヲ有スル者ナラサルヘカラス而シテ又本社ニ代リテ保險料ヲ徵收シ保險金解約返還金等ノ拂渡ヲ取扱フ者ナルカ故ニ資産ナキ者ニ委託スヘキニアラス且常ニ保險契約者竝ニ一般世人ノ質疑ニ對シテ生命保險ノ組織方法等ヲ説明シ會社ノ確實ナル所以ヲ立證シ且其取扱フ所ノ契約ニ關シ完全ニ其事務ヲ執行スルニハ相當ナル教育ノ素養ヲ要スルコト勿論ナルモ是等ノ資格ヲ兼備セル者甚稀ナリト言ハサルヘカラス

第三 代理店監督ノ困難

一タヒ適當ナル代理店ヲ得タリトスルモ之カ常ニ誠實ニ從事セルヤ其資産信用ノ程度カ低下セサルヤ等ヲ知ルノ困難亦頗ル大ナリ代理店ノ費消倒産

詐欺手段等ヨリシテ會社カ絶エス損害ヲ被リツツアルハ此困難カ容易ニ救濟セラルヘカラサルヲ證スルノ事實ニシテ西洋ニ於ケル代理人ノ組織ニ在リテモ亦此困難ヲ除ク能ハス之ニ對シテハ總代理人又ハ監査員(Inspector)ヲシテ常ニ代理店所在地ヲ巡回セシメ陰ニ之ヲ監視スルノ方法アリト雖トモ費用ヲ要スルコト多ク且資産状態ノ變動ハ頗ル陰密ニシテ之ヲ發見スルコト困難ナリ之ニ就テハ代理人ヨリ保證金ヲ納付セシムルノ方法アリト雖トモ我國現時ノ状態ニ於テ資産信用アル地方ノ人士ニ對シ會社カ保證金ヲ請求スルカ如キハ殆ント能クスル所ニ非ス是亦時勢ノ變遷ニ伴ヒ會社ハ常ニ其機會ヲ捕フルニ勉メサルヘカラサルナリ

第四 代理店カ地方的ノ感情及ヒ利害ニ制セラレテ不當ニ被保險者ヲ庇護スルコト

代理店ハ會社ノ代人トシテ忠實ニ事務ニ鞅掌シ被保險者ト會社トノ間ニ利害ノ相反セル場合ニハ特ニ會社ニ加擔セサルマテモ公平ニ事ヲ處理セサルヘカラサルヲ其地方ニ對スル同情交誼並ニ利益上ノ關係ヨリシテ却テ被保

險者ヲ曲庇シテ損害ヲ會社ニ被ラシムルコト少カラス延滞シタル保險料ノ領收保險金ノ支拂等ニ際シテ最多ク起ル所ノ問題ナリトス而シテ此困難ハ會社ニ專屬スル代理人ノ發達ニ伴ヒテ漸次減少スヘシト雖トモ今日ニ在リテモ既ニ多額ノ保險契約ヲ有シ代理店ノ業務カ其有力ナル收入ノ源泉タル場合ニ在リテハ寧ロ代理店ヨリシテ會社ノ鼻息ヲ窺フノ結果大ニ本社ノ利害ヲ尊重スルコト無キニ非ラス代理店ニ關スル困難モ畢竟會社ノ勢力問題ニ歸著スルコト少カラサルナリ

第五 募集員ノ品性ニ關スル問題

生命保險ヲ公衆ニ勸誘スルノ業ハ猶宗教ヲ傳道スルカ如ク毫モ卑シムヘキニ非スト雖トモ殊ニ此思想ノ進歩セサル社會ニ於テ所謂執拗ニ所謂厚顔ニ對手ヲ訪問シ説得シ懇請セサレハ容易ニ其加入ヲ得ル能ハサルヨリ募集員ナル者ハ一般ニ世人ノ厭忌スル所トナリ品性ノ上位ニ在ル者ニシテ尙且此厭忌セラルル職務ヲモ敢テスル者ハ甚少數ナラサルヲ得サル結果詭辯ニ巧ニシテ眞ノ素養ナク風采堂堂タルモ智識極メテ淺薄ナルカ如キ者此重要ナ

ル職務ヲ執リテ誤謬ノ説明ヲ與ヘ強壓ナル勸誘ヲ試ミ或ハ不道義不品行ノ舉動ヲ演スルカ爲メニ其本尊タル生命保險竝ニ會社ノ名譽ト信用ヲ傷クルコト少カラス之ヲ救済スルニハ募集金額ヲ以テ彼等ニ報酬行賞スルノ方法ヲ廢シ一定セル教育程度ヲ以テ採用ノ標準トシ之ニ保險智識ノ一班ヲ授ケ又個人的勸誘ノ外ニ講話演說新聞雜誌著書等ノ機關ト方法ヲ以テ斯道ノ福音ヲ一般社會ニ鼓吹スルカ如キ弊害少キ方法ヲ獎勵セサルヘカラス而シテ此問題ハ目下斯業者間ニ於テ大ニ著目研究セララル所ナリト雖トモ人物ノ改善ト報酬給與ノ方法ノ如キハ經費ノ多少ト雖ルヘカラサル關係ヲ有スルヲ以テ遽ニ實行スルコト難ク而モ一般的傳道ノ如キハ何時ニテモ容易ニ之ヲ行フヲ得ヘキニモ拘ハラス斯業者カ割合之ニ冷淡ナルカ如キハ我國民ノ未タ共同利益ノ道理ヲ解スルコト深カラサルノ缺點ニ職由スト謂ハサルヘカラス

第六 費用ノ問題

生命保險ハ各個人ニ取リテ缺クヘカラサル制度タルニモ拘ハラス多數ノ人

ハ勸誘員ノ訪問ニ會ハサレハ之ニ加入セス保險會社モ亦進ンテ申込ミ來レル被保險者ハ惡意アル者ニ非サルヤヲ疑フカ如キ狀態ニシテ又縱令自然ノ需要者アリトスルモ多數ノ同業者カ之ニ競争スルノ間ニ在リテハ單ニ門戸ヲ開キテ來者ヲ迎フルカ如キ緩漫ナル態度ヲ固守スル能ハス多數ノ募集員代理人ヲ派出シテ普ク保險契約者ヲ索メサルヘカラス故ニ契約獲得ノ費用(Abschussprovision)ハ生命保險事業ニ於テ殆ント缺クヘカラサル必須ノ經費ナリ而シテ此經費ハ募集ノ成績ニ準シテ支出セララル請負主義ト直接ニ其成績ニ關係セサル俸給主義トアリ諸外國ニ在リテハ多ク前者ニ據リ多キハ第一回保險料ノ全部ヲ代理人ニ與フル處スラアリ善キ報酬ヲ與ヘサレハ善キ代理人ハ得ヘカラストハ彼等ノ往往口ニスル所ノ格言ナリ我國ニ於テモ結果報酬又ハ成功報酬ト唱ヘテ契約金額千圓ニ對シテ二十圓三十圓ト云フカ如キ割合ヲ以テ給與スルコトアリト雖トモ多クハ其技術ニ相應セル給料及ヒ旅費日當ノ外ニ紹介料ト名ケテ紹介者ニ支拂フヘキ手数料保險金千圓ニ對シテ五圓乃至十圓ヲ支出スルコトトセルカ故ニ折衷主義トモ稱スルコトヲ

得ヘシ勿論獎勵又ハ行賞ノ爲メニ特別手當賞與金等ノ名ヲ以テ尙他ノ給與ヲ行フコト無キニアラス要スルニ俸給主義又ハ折衷主義ハ請負主義ニ比シテ概シテ費用ノ増嵩ヲ見ルモノトス

新契約ニ對スル經費ノ制限紹介手数料獎勵的賞與ノ額等ハ總テ保險金額ヲ標準トシテ定ムルヲ普通トスト雖トモ間第一回保險料ノ額ヲ標準トシテ支出シ勉メテ保險料ノ收入多キ契約ヲ獲得セシメント欲スル會社アリ比較的着實ナル方法ト云フヘシ米國會社ニ在リテハ新契約紹介料ヲ減少シ之ニ代フルニ七箇年間收入保險料ノ百分ノ若干ヲ代理人ニ給スルノ方法ヲ採用セル者多シ

第七 結果ノ審査

代理人カ多數ノ契約ヲ獲得スルコトハ素ヨリ希望スヘキコトナリト雖トモ尙重要ナル事項ハ其獲取セラレタル契約ノ結果如何ニ在リ如何ニ僅少ナル經費ヲ以テ多額ナル契約ヲ締結シ得タリトスルモ其契約カ直チニ怪シムヘキ死亡ヲ出シ或ハ幾モナクシテ解約ノ續出ヲ招クカ如キコトアラハ寧ロ之

ヲ獲得セサルニ如カス結果報酬ノ成績ニハ時トシテ此種ノ害惡ヲ包藏シテ經費節約ノ利益ヲ其根柢ヨリ覆ヘスコト無キニ非ス故ニ當業者ハ管ニ是等ノ結果ヲ參酌シテ成績ヲ審判スルノミナラス如キ怪シムヘキ結果ヲ齎ラシタル代理人ハ速ニ之ヲ解任シテ斯業ノ弊風ヲ除去スルニ勉メサルヘカラス

以上七項ノ外代理店及ヒ募集員ニ關スル問題ハ裕ニ一卷ノ書冊ニ溢ルヘシ而シテ是等ノ問題ト困難ヲ避ケンカ爲メニ代理店ヲ設ケスシテ支店出張店ヲ各地ニ置キ社員ヲ派遣シテ業務ヲ行ハシメントスル會社アリト雖トモ營業所ノ費用社員ノ俸給旅費ノ負擔増大シテ到底之ニ堪ユヘキニ非ス又代理店ハ固ヨリ出張店ヲモ置カサル例ヘハ第一生命ノ如キアリト雖トモ募集員ヲ採用スルコトハ他會社ト異ナラサルヲ以テ英國ノ「イクイターブル」ノ如キ全ク代理人無キモノトハ同一視スヘカラス全ク代理人ヲ置カサル會社ノ如キハ猶人體ニ手足ナキカ如ク生命保險事業ニ必須ナル機關ヲ缺ケル者ニシテ今日ノ生存競争状態ニ適シタル主義ト謂フヘカラス斯業ハ結局代理人ノ制度ニ依リ可及的ニ其

短所ト弊害ヲ芟除シツツ實行セラレサルヘカラサルナリ
 生命保險ノ宣傳勸誘ニ最努力ヲ傾倒シ且其結果最顯著ナル米國ニ於テハ諸會
 社競テ代理機關ノ完整ヲ計リ教育人格優秀ナル者ヲ擇ヒテ總代理人 (General
 agent) ニ任命シ管轄區域ヲ定メテ部下ノ代理人ヲ監督獎勵セシム故ニ又監査員
 (Inspector) ノ名アリ其地位ハ支配人ニ比スヘキヲ以テ又 Manager ト呼ハルルコト
 アリ而シテ會社ヲ契約關係ニ於テ代表スル爲メ Representative (代表者) トモ稱セラ
 ル生命保險事業ヲ質ニ於テ善良ナラシメント欲セハ須ク此職務ノ向上ヲ圖ラ
 サルヘカラス我國ニ於テモ近時此點ニ着眼シ學校ヲ設ケテ優良ナル監査員ノ
 養成ヲ試ミツツアル會社アリ總代理人ノ下ニ通常代理人地方代理人 (Local agent)
 等アリ會社ニ於テハ是等ノ教育訓練待遇等ニモ深厚ナル注意ヲ拂ヒ宛ラ軍隊
 ノ戰場ニ臨ムカ如ク旌旗堂堂斯業ノ爲メニ奮闘セシム其勇壯ノ狀眞ニ嘆賞ス
 ヘキモノアリ

然リト雖トモ奮闘ト競争ノ結果ハ往往弊害ノ發生ヲ免レス例ヘハ下劣ナル代
 理人ノ混入其無責任ナル言動虛欺ノ印刷物統計表等ニ依リテ世人並ニ同業者
 ヲ害スルコト少カラサルカ如シ是ニ於テカ政府モ亦之ニ對スル應策ヲ立テ生
 命保險代理人取締ノ法規ハ諸州ニ於テ見ル所ナリ其代表的ナルハペンシルヴェ
 ニア州ノ法律ニシテ先ツ同州ニ於テ代理人トナリ保險勸誘ニ從事セント欲ス
 ル者ハ保險監督官ニ對シ所定ノ書式ニ據ル申請書ヲ提出シテ免狀ノ交付ヲ請
 求セサルヲ得ス此請求書ニハ會社カ之ヲ採用スル旨ノ證明ヲ爲ササルヘカラ
 ス監督官ハ之ヲ精査シテ免狀ヲ交付スルモ資格不充分經歷不良等ノ者ニハ之
 ヲ拒否スルノ權アリ又一旦免狀ヲ付與シタル者ト雖トモ不正ノ行爲アルトキ
 ハ之ヲ取上クルノ權能アリ不正行爲トハ收入保險料ノ費消着腹被保險者ヲ誘
 致シ若クハ他會社ノ被保險者ヲ解約セシメンカ爲メニ虛妄ノ言辭又ハ印刷物
 ヲ使用スルカ如キ行動ヲ指スナリ而シテ保險會社ハ定期ニ自家ノ使用セル代
 理人ノ氏名ヲ監督官ニ届出ツル義務アリ代理人カ個人ニ非スシテ組合又ハ會
 社ナル場合ニハ組合員又ハ代表社員ヲシテ免狀申請ヲ爲サシム此ノ如キ法律
 ハ我國ニ於テモ其必要ナキヤヲ疑フ者アレトモ吾人ハ成ルヘク法律ノ力ニ依
 ラスシテ斯業者ノ覺醒ト努力ニ依リテ此趣旨ヲ實行センコトヲ望マサルヲ得

又米國ニ於テハ生命保險會社ノ社長ヲ結合シタル協會アリ斯業ノ隆盛ニ資スヘキ重要案件ヲ協議實行スルノ機關ナルカ就中代理機關ノ改善ニ共通ノ努力ヲ試ミ居レリ而シテ又代理者ノ會合所在ニ行ハレ其汎米國會議スラ舉行セラレ其職業ノ改善向上ノ爲メニ氣ヲ吐ケリ是等ハ我國ニ於テモ緊急ノ措置ナリト信セサルヲ得サルナリ(生命保險ノ勸誘ニハ諸般ノ知識ハ外熱誠ト機智ヲ土臺トスル教化的技能ヲ要ス之ニ就テ研究説述シタル著書諸外國就中米國ニ少カラサルモ我國ニ於テモ岡村又吉氏(生命保險募集虎之卷)細谷進二氏(勸誘精神ト保險勸誘者等)アリ兩書共保險銀行時報社發賣)

第八章 生命保險事業ノ財政

第一節 收支ノ計算

凡ソ如何ナル事業タルヲ間ハス收支ノ平衡ハ最其要訣ニシテ收支ノ結果ニ不足ヲ見ルハ固ヨリ不可ナリト雖トモ剩餘ノ過多ナルモ亦必シモ嘉スヘキニ非ス殊ニ生命保險事業ハ多數者ノ出資ヲ集積シテ過不及ナク相互救済一實ヲ舉

クヘキ性質ノモノニシテ保險業者カ過當ノ利益ヲ享受スルコトハ株式會社ニ在リテハ貪慾ニ流レ相互會社ニ於テハ無用ノ業ニ屬ス保險契約ニ對スル利益又ハ剩餘金ノ分配ハ過剩ヲ調節スルノ方法ナリト雖トモ利益分配ハ真正ノ公平ヲ期シ難キヲ以テ當初ヨリ低廉ナル保險料ヲ定ムルヲ以テ優レリトセサルヘカラス然リト雖トモ生命保險會社ハ創業以來年數ヲ經過シテ保險契約ト之ニ伴フ收入保險料ノ増大スルニ從ヒ經費ノ割合良好ニ趣キ物價ノ騰貴金利ノ低下ニ伴フ不利ヲ補償シテ尙餘アルニ至ルヲ常トスルヲ以テ收支ニ莫大ナル剩餘ヲ生スルコト亦止ムヲ得サル事情ナリ故ニ之ニ對スル最適當ナル處置ヲ研究スルコト極メテ重要ナル事項ナリトス

生命保險事業ノ收入科目ハ割合單純ニシテ保險契約者ヨリ集得スル所ノ保險料及ヒ其利子並ニ其資産ヨリ生スル利子配當及ヒ少許ノ雜收入ニ前年度末ニ於テ存在セシ責任準備金及ヒ支拂備金ヲ加ヘタルモノカ一事業年度ニ於ケル收入ノ合計ナリ責任準備金及ヒ支拂備金ヲ斯ク收入ニ組入ルルハ是等ノ勘定ハ毎年度末ニ於テ新ニ會社ノ責任ヲ計算シテ其金額ヲ定ムルコトトシ年度内

ニ於テハ縦令責任カ減少シ又ハ支拂備金ヲ拂出スコトアルモ前年度末ノ金額ヲ減少セサル方法ヲ採ルヲ以テナリ然ルニ生命保險會社ノ支出ハ比較的ニ複雑ニシテ第一ニ其年度末現在契約ニ對スル責任準備金及ヒ支拂備金第二ニ保險金解約返還金其他ノ返還金第三ニ諸經費第四ニ財產上ノ損失ナリトス責任準備金ハ曩ニ其計算法ヲ概述シタル如ク精密ナル箇箇契約ノ計算ヨリ出テ時トシテハ便利ノ爲メニ群團ニ基キテ多少ノ平均算ヲ用ヒテ算出セラレサルニ非サルモ要スルニ保險數理ノ指示スル所ニ依リテ其金額ヲ決定スヘキモノナリ然レトモ今素人ノ爲メニ最了解シ易キ概算ヲ言フトキハ各種ノ養老保險ヲ營ミ又非常ニ多數ノ解約ヲ出ササル會社ニ在リテハ前年度末ノ責任準備金額へ當年度收入保險料ノ四割五分乃至五割五分ヲ加フルヲ以テ凡ソ正當ナリト推斷セサルヘカラス

次ニ支拂保險金ノ總額ハ會社ノ新古ニ由リ又契約ノ狀態ニ由リ一言ヲ以テ其標準ヲ示スコト能ハサルモ漸次契約額ヲ増加スル所ノ進歩的會社ニシテ年度收入保險料額ノ三分ノ一以下ヲ支出スルトキハ損失ナシト見テ大過ナカルヘシ又解約返還金其他ノ返還金ハ通常責任準備金中ヨリ支出サルモノナル上ニ相當費用ノ賠償ヲ控除スルヲ以テ損益ノ計算ニハ比較的影響少シト雖トモ其割合多キハ一般ニ健全ナル現象ト云フヘカラス而シテ經費ニ至リテハ附加保險料ノ部分即チ收入保險料ノ二割乃至二割五分ヲ以テ之ヲ支辨スル者ヲ上乘トセサルヘカラス勿論新會社ニシテ舊契約少ク新契約ニ熱中スル時代ニハ後者ニ多額ノ費用ヲ要スル爲メ時トシテ收入保險料ノ半額以上ヲ消費スルコトアルモ健實ナル契約ナラハ將來ノ利益ト現在死亡率ノ差違ヲ以テ之ヲ償ヒ得ルカ故ニ必シモ非難ヲ加フヘキニ非ス然レトモ此ノ如キ狀態ハ獨リ我邦ノ如キ斯業ノ新參時代ニ就テ言フヘキ所ニシテ諸外國ノ發達シタル會社ニ於テハ大ニ如上ノ數字ヲ異ニシ經費ノ如キモ普通生命ニ在リテハ收入保險料ノ一割二三分ニ過キサル者少カラス簡易生命ニ於テ二三割ニ達スル者ヲ見ルノミ生命保險會社ノ收支ニ最重大ナル影響ヲ與フルモノハ新契約費用ニシテ新契約額比較的ニ多大ナルトキハ會社ハ永遠ノ爲メニ實質的利益ヲ得ル場合ト雖トモ當該年度ノ收支ニ於テハ多大ノ不足ヲ見ルコトアリ故ニ年年收支ノ平衡

ヲ得ンニハ繼續契約額ト新契約額ノ均衡ニ注意セサルヘカラス勿論責任準備金中ヨリ新契約費ヲ借入レ支辨スル所ノ「チルメル」法アリ又米國ニ於ケル初年度責任準備金ヲ積立テサル方法等アルヲ以テ是等ノ計算ヲ考察シテ新契約額ノ豫定ヲ作成セサルヘカラス經常費ハ役員職員等ノ從業者(勸誘員ヲ除ク)ノ報酬俸給賞與等ヲ主要ナルモノトスルモ往來事務所用建物ノ賃貸料ニ多額ノ費用ヲ要スルモノアリ次ニ帳簿紙類印刷物「カード」類薪炭等ノ消耗品費郵稅送料等ハ比較的多額ニ上ルモノナリ集金手數料(Inkassoprovision)ハ代理店ヘ其取扱ヒタル收入保險料ノ通常五分ヲ與ヘ第一回保險料ニ限り往來一割マテモ支拂フコトアル爲メニ收入保險料ノ金額ニ比例シテ増加スル所ノ一大支出ナリ諸稅モ亦輕視スヘカラサルモノニシテ相互保險會社ハ營業稅ヲ課セラレサルモ株式會社ニ在リテハ資本金並ニ之ニ準スヘキ積立金ヲ標準トシテ課稅セラレ保險契約者ヘ支拂フヘキ利益配當準備金マテ加算セラレントスル爲メ保險會社ハ時時行政訴訟ヲ起シテ之ニ抗議シツツアリ所得稅モ亦通常巨額ノ利用財産ヲ擁スル生命保險會社ニ取リテハ重大ナル負擔ニシテ結局多數保險契約者ノ

頭上ニ分賦セララル所ノモノナリ是等ノ外有能ナル職員ヲ養成スル費用同業者ノ共同利益ヲ目的トスル事業ノ費用例ヘハ生命保險會社協會費全國保險業者大會費斯業ノ發達ヲ阻止スル法律行政等ニ對スル反對運動費ノ如キ多少ハ免ルヘカラサル經費ナリ而シテ是等ノ經常費ハ必シモ皆契約ノ維持ニノミ費スモノニ非スシテ間接ニ新契約募集ノ爲メニ資スル所少カラサルヲ以テ新契約費ト維持費トハ事實上劃然タル區別ヲ爲スコト能ハス新契約費ハ通常保險契約ノ勸誘募集ニ直接必要ナル費用例ヘハ保險案内保險申込書用紙普通保險約款宣傳ビラ廣告用印刷物等ノ費用其他講演會活動寫真興行等ノ費用身體診查ニ關スル費用外勤社員ノ俸給手當旅費日當交際費代理店紹介者等ニ對スル紹介手數料保險證券作成費(西洋ニ於テハ保險證券ニ對スル印紙稅高クシテ保險金額ニ相當スルモノヲ貼用スル所多ク從テ保險契約者ヲシテ之ヲ負擔セシムルコトトスルモ我國ニ在テハ金額ニ拘ハラス一通參錢トセリ)等ノ外經常費ノ幾分例ヘハ十分ノ一又ハ二ヲ之ニ加算スルノ必要アルナリ而シテ此新契約費ハ結局保險契約者ニ無用ノ保險費ヲ負擔セシムル原因トナルモノ多キヲ以

テ極力節約ヲ勉メサルヘカラス民業保險カ此點ニ於テ成功スル能ハサレハ國
 家の保險ノ制度ヲ以テ之ヲ救正セサルヘカラス況ンヤ經常費ニ過大ノ支出ヲ
 爲ス如キニ至リテハ斯業ノ本質ヲ没却スルノ非難ヲ被ラサルヘカラサルヲヤ
 是ニ於テカ外國保險會社ハ皆保險料收入額ニ對スル經費ノ割合ヲ公表シ他會
 社トノ比較ヲ求メテ其節約ナル事業ノ心證ヲ誘致シ次テ各自ノ拂込保險料額
 ニ對スル利益又ハ剩餘金ノ分配額ヲ競争シツツアリ生命保險ハ贅澤ノ爲メニ
 非ス多數ハ心身ノ奮勵努力ニ依リテ老後又ハ遺族ノ爲メニ備ヘント欲スル者
 ノ德性的並ニ社會的犠牲ニ基ク行爲ナルヲ以テ其代價ハ最低廉ナラサルヘカ
 ラス而シテ生命保險事業カ此理想ニ合致スルニハ獨リ利益分配率ノ良好ナル
 ノミナラス本來ノ保險料カ低率ナルヲ要件トセサルヘカラサルナリ
 以上ハ收支ノ勘定科目ニ就テ聊カ説明シタル所ナルカ是等双方ノ金額カ互ニ
 相殺シテ剩シ得タル所ノ利益ハ結局曩ニ(第二編第六章第一節)説明シタル三種
 ノ利源即チ第一損害ノ豫定ト實額ノ差第二費用ノ剩餘第三利差ヨリ產出セラ
 ルルモノナルヲ以テ斯業者ハ是等ノ各箇ニ最モ善ク着眼シテ常ニ調査ト適當

ナル措置ヲ施ササルヘカラス損害ノ豫定ト實額ノ差トハ生命保險ニ在リテハ
 曩ニ危險準備金ノ項ニ於テ説明シタル死亡率ノ差違ヨリ生スル保險金支拂上
 ノ利益ニシテ生存保險ニ在リテハ生存率ノ差違ヨリ生スル利益ナキニ非サル
 モ其金額大ナラサルヲ以テ重要視セラレス身體診査ヲ嚴重ニシテ健全ナル生
 命ヲ選擇シタル爲メ契約後數年間ニ於ケル死亡減少ノ結果ハ往往多額ノ利益
 ヲ齎ラス所ノモノナリ第二費用ノ剩餘トハ是亦前ニ説明シタルカ如ク附加保
 險料ヨリ生スル利益ニシテ第三ノ利差ハ豫定利率ト實際利廻リノ差ヨリ生ス
 ル資産運用上ノ利益ナレハ發達シタル會社ニ在リテ最重要ナル利源ナリ是等
 ノ利益ハ決シテ毎年其全部ヲ株主並ニ保險契約者ニ分配スヘキモノニ非スシ
 テ危險準備金其他ノ準備金トシテ一部分ヲ積立ツヘキハ既ニ述ヘタル如クナ
 ルモ過當ニ積立金ヲ蓄積スルコトモ亦無用ニシテ且不合理ナルノミナラス往
 往弊害ヲ誘起スルノ原因タリ故ニ死差益多キニ過クレハ身體選擇ノ方針ヲ稍
 寛大ニシテ加入生命ノ範圍ヲ廣ムルモ可ナリ又純保險料ノ低減ヲ斷行スルモ
 可ナリ附加保險料ニ剩餘ヲ見ルコト明ナレハ之ヲ刪減スヘク資産運用上ノ利

益莫大ナラハ宜シク利益分配ヲ裕ニシ豫定利率ノ改訂ヲモ行フヘク又保險事業ノ全般ニ寄與シ國家ノ福祉ニ貢獻スルカ如キ公共事業ニ費スモ可ナラン例ヘハ諸外國就中米國ニ於テ最盛ニ行ハルル所ノ被保險者及ヒ國民ノ健康保全ニ關スル施設ニシテ米國ノ會社ハ其從業員ノ爲メニ高燥閑雅ノ土地ヲトシテ換氣養生ノ遊園及ヒ建物ヲ造リ罹病者ヲモ收容シテ其恢復ヲ計リ巡回診察機關ヲ設備シ醫師ヲシテ少クトモ二年ニ一回各被保險者ヲ訪問シテ健康診斷ヲ試ミ若シ既ニ疾病ニ侵サレタランニハ適當ナル注意ヲ與ヘ醫療養生ノ方法ヲ教ヘ又廣大ナル病院ヲ建設シテ被保險者ノ無料入院診療等ヲ行フカ如キ或ハ結核豫防其他ノ保健衛生ノ事業ニ參同スルカ如キ善美ナル企舉ニ費用ヲ吝マナルナリ資産利益ノ如キハ多クハ國家社會ノ現象ト事情ニ因シテ生スルコト多キヲ以テ此種ノ國家的社會的事業ノ爲メニ之ヲ割クヲ以テ最適當ナル措置ト信セサルヲ得サルナリ

第二節 財産ノ利用法

生命保險會社ノ資本金ハ比較的小額ニシテ相互會社ニ在リテハ之ヲ有セサル者アリト雖トモ其責任準備金ハ年年急速ニ増大シ我國ニ於テスラ數千萬圓ヲ擁スル會社少カラス大正十年末ニ於ケル全國生命保險會社ノ責任準備金總額ハ四億圓ニ垂ントセリ此巨額ナル資産ヲ其他ノ財産ト共ニ適當ニ運用スルハ斯業ニ隨伴スル所ノ至重至大ノ問題ナリ而シテ責任準備金以外ノ財産トハ何ナリヤト言フニ資本金又ハ基金、法定準備金、基本準備金、別途準備金、株主配當準備金又ハ社員配當準備金、職員恩給資金其他ノ準備金、支拂備金、職員身元保證金其他ノ預金等ニ對應スル財産ニシテ是等ハ或ハ株主又ハ基金釀出者ニ對スル債務タリ或ハ職員ニ關スル預リ金タリ又ハ保險契約ニ對スル危險準備タリ其性質ニ於テ互ニ差違アルヲ免レスト雖トモ要スルニ保險會社ノ財的基礎ヲ保證スル所ノモノナレハ其利用法モ亦固ヨリ確實ナラサルヘカラスト雖トモ責任準備金ニ至リテハ直接ニ保險契約上ノ責任ヲ果ス爲メニ計算上必要ナル金額ニシテ銀行ノ預金ニ類スルモノナレハ其利用法ハ更ニ嚴重ナラサルヘカラス我保險業法カ第九十六條ニ於テ「生命保險ニ在リテハ保險契約者又ハ保險金

額ヲ受取ルヘキ者ハ被保險者ノ爲メニ積立テタル金額ニ付キ會社財產ノ上ニ優先權ヲ有ス」ト規定セルヲ見ルモ其性質ヲ窺知スルヲ得ヘシ故ニ保險業法施行規則ニ於テモ生命保險會社ノ財產利用ニ關シテハ責任準備金ト責任準備金以外ノ財產トニ區別シテ其方法ヲ定メ主務官廳ノ認可ヲ受クヘキ旨ヲ規定セリ(同第十三條)

然リ而シテ法律ハ斯ク責任準備金ト其他ノ財產ニ付キテ區別ヲ命セリト雖トモ我國生命保險會社ノ實際ヲ見ルニ責任準備金ノ利用方法ヲ其他ノ財產ニ對シテモ應用シテ事業ノ安全ヲ主眼トスル者多數ナルヲ以テ茲ニハ兩者ノ區別ヲ試ミス先ツ一般ニ生命保險會社ノ資産運用ニ關シテ基準ト爲スヘキ原則ニ就テ説述スル所アラントス

第一 鞏固ナルコト

消滅失價減耗等ノ危險ヲ絶對的ニ回避セサルヘカラス貸付金就中無擔保貸付ハ許容スヘキニ非ス建物森林其他ヲ擔保トスル場合ニ在リテハ必ラス火災保險ヲ付シ確實ナル評價額ノ七割以上ヲ貸付クヘカラス土地ヲ擔保トス

ル貸付ハ比較的堅固ナリト雖トモ其評價ハ最嚴正ナラサルヘカラス我國ニ於テハ田畑ヲ擔保トスルヲ避クルカ如キモ理由無シト言ハサルヘカラス現ニ米國生命保險會社ハ盛ニ畑地貸付(Farm Loans)ヲ行ヘリ保險證券ヲ擔保トスル貸付ハ解約返還金又ハ保險金ヨリ之ヲ差引クモノナレハ絶對ニ辨濟不能ノ恐無シト雖トモ生命保險ノ立場ヨリ見レハ遠キ將來ノ保險金ヲ前借シテ多クハ解約ニ歸スルモノナレハ甚シク推奨スヘキモノニ非ス銀行預金ハ第一流ノ銀行ヲ選擇スヘク有價證券ノ取得ノ如キハ最注意スヘキモノニシテ國債證券地方債證券等ノ外ハ創立以來多年ヲ經過シ事業ノ基礎確實ニシテ常ニ適當ナル利益配當ヲ繼續スル大會社ノ社債又ハ株券ニ限ラサルヘカラス不動産ノ所有モ亦鞏固ノ點ニ於テハ他ニ遜ラサルモ固定並ニ收益ノ少キ缺點等ノ他ノ事情ノ爲メニ制限セラレサルヲ得ス

第二 價格ノ變動少キコト

價格ノ變動ハ不動産ニ於テモ無キニ非スト雖トモ其頻繁ナルハ多ク有價證券ニ於テ見ル所ニシテ之カ爲メニ評價ノ複雑ト損益ノ頻繁ヲ招來シ殊ニ經

濟界ノ動搖時期ニ遭遇シテ決算上多大ノ困難ヲ感スルハ此事情ニ關スルコト多シ故ニ有價證券ノ取得ニ際シテハ可及的其價格ノ變動少キモノヲ選擇スルヲ要ス

第三 有利ナルコト

財産ハ斷エス相當ノ收益ヲ擧クルモノタルヲ要ス是レ生命保險會社ノ責任準備金ハ毎年豫定ノ利率ニ依リテ増殖セラルヘク計算セラレタルモノタルコト前ニ述ヘタルカ如クナレハナリ況ンヤ資本金又ハ基金ニ對シテハ少クトモ世間普通ノ利益配當又ハ利息ヲ支拂ハサルヘカラサルヲヤ然レトモ有利ト鞏固トハ往往兩立セサル場合アリ銀行預金ノ如キ現ニ一流銀行ノ利子ハ低率ナリ然レトモ此場合ニハ鞏固ヲ先ニシテ有利ヲ後ニセサルヘカラス要ハ例外ニ利廻リノ低キモノ例ヘハ般盛ナル市街ノ土地ニシテ地價ノ割合ニ地代ノ收入少キモノ鑛山山林原野未開墾地等ノ收益ヲ遠キ將來ニ期セサルヘカラサルモノ等ヲ避ケ殊ニ利子ヲ産マサル資産科目ノ増加ヲ警戒スルニ在リ利子ヲ産マサル資産トハ代理店勘定未收保險料假拂金等ヲ其主ナル

モノトシ保險會社ノ業務カ擴張セラルルニ從ヒ是等ノ金額カ頗ル増嵩スルコトアリ代理店勘定トハ保險契約者カ保險料ヲ代理店ヘ拂込ミ代理店ハ其旨ヲ本社ヘ報告スルモ未タ送金セスシテ其保管ノ下ニ置ケル場合ノ中間勘定ニシテ代理店貸トモ稱セリ通常代理店契約ニ於テハ翌月五日マテニ前月分ノ收入保險料ヲ本社ヘ送金スヘキ旨ヲ協約セルモ之ヲ怠ル者少カラス甚シキニ至リテハ數月延滞シテ終ニ不納ニ了ルモノスラ在リ我國ニ於テモ最大ナル會社ニ在リテハ五十萬圓以上ノ代理店勘定ヲ有セルモノアリ未收保險料トハ保險契約者カ正當拂込期日ニ於ケル保險料ノ拂込ヲ怠リ延滞ニ屬セルモノニシテ其金額屢代理店勘定ノ上ニ出ツルコトアリ又假拂金ト稱スルハ多クハ經費ノ未精算分ニシテ真正ノ資産ニ非ス假ニ是等ノ資産科目ヲ合計シテ其金額十萬圓アリトシ而シテ會社ノ全財産ヲ五十萬圓アリトセハ實際利用セラルヘキ資産四十萬圓ニ年六分ノ平均利殖ヲ得タリトスルモ全資産額五十萬圓ニ對シテハ四分八厘ヲ得ルニ過キサナリ但近來鞏固ヲ誇ル會社ニ於テハ未收保險料假拂金等ノ資産科目ヲ設ケスト雖トモ正當ナル

未收保險料假拂金等ハ毫モ不合理ナルモノニ非ス未收保險料カ全部次年度ニ於テ回收セラルル實例少カラス唯業務不整理ノ結果此種ノ勘定科目膨脹スルトキハ不利ニ陥ルコトヲ思ハサルヘカラサルノミ

事業ノ目的ニ使用セラルル建物什器等ノ膨脹ト増加モ亦會社ノ資産運用率ニ多大ノ影響ヲ與フルモノタリ例ヘハ會社カ虛飾ノ爲メニ若クハ廣告ノ爲メト稱シ非常ナル繁盛殷賑ノ場所ヲ擇ミテ壯大美麗ナル建物ヲ築造シ室内ノ裝飾ヲ善美ニシ器具ヲ精選シ又全國到ル所ノ都市ニ支店出張所ヲ設置シ其建築ノ勝レタルヲ誇示スルカ如キ場合ニ於テハ之カ爲メニ金利ヲ失フコト莫大ニシテ會社ノ利益金又ハ剩餘金ヲ保險契約者ニ分配スル組織ノ會社ニ在リテハ特ニ慎重ニ之ヲ考慮セサルヘカラス米國ノ生命保險會社カ其事業ノ發達顯著ナルニモ拘ハラズ往往不慎重ニシテ被保險者ノ膏血ヲ絞ルトノ非難ヲ受クルコトアルハ華麗ナル建築商策ニ依リ宛ラ宮殿ノ如キ裝置ヲ以テ世人ヲ眩惑スルカ如キ輕浮ナル行動ニ奔ルカ故ナリ

我國ニ於ケル生命保險會社ノ豫定利率ハ間間三分五厘ノモノアレトモ多ク

ハ四分ニシテ生存保險ニ在リテ五分ヲ採用セリ故ニ責任準備金ヲ公債又ハ最確實ナル會社ノ社債ニ投資シ或ハ第一流ノ銀行ニ定期預金シ平均年六七分ノ利殖ヲ得ハ坐ナカラニシテ二三分ノ利差ヲ博シ一千萬圓ノ責任準備金ニ對シテハ二三十萬圓ノ利益ヲ剩シ得ルノ有利ナル状態ニ在リ而モ諸外國ハ之ニ反シ一般社會ノ金利低キカ爲メニ生命保險會社ノ豫定利率ハ三分五厘又ハ三分ト定メラルルモ而モ公債ノ利率ハ二分五厘ニ過キサ場合スラアリ利差ヲ得ルコトノ困難之ヲ我國ノ事情ニ比スレハ雲泥霄壤ノ差アリ故ニ斯業者ノ之ニ關スル研究ト苦心少カラス第三回萬國「アクチアリー」會議ニ於テモ之カ討議ノ問題トナリシコトアリ我國ノ一般金利モ世界ノ大勢ニ從ヒテ漸次低下ノ傾向ハアレトモ極東ノ孤國聊歐米ト金融事情ヲ異ニセルカ爲メニ資本ノ優勢ハ未タ遽ニ金利ノ平衡ヲ齎スニ至ラス現貨ノ蓄積最顯著ナル生命保險事業ノ財産利用問題ハ尙坦坦タル塔道ニ輕車ヲ驅ルノ觀アリト謂ハサルヘカラス斯業者ハ益以テ鞏固ト質實ヲ主眼トシ其範圍内ニ於テ可成有利ナル運轉ヲ試ムルヲ以テ足レリトス

第四 集中ヲ防クコト

如何ニ鞏固安全ナリト思惟セラルル方法ト雖トモ全財産ヲ之ニ集中スルコトハ萬一不慮ノ場合ニ遭遇シテ償フヘカラサル大打撃ヲ被ルノ恐アルヲ以テ之ヲ回避セサルヘカラス例ヘハ國債證券ノ取得ノ如キ通常最堅實ナリト思惟セラレ我國ノ保險行政ニ於テモ帝國公債ノ取得ニ何等ノ制限ヲ設ケスト雖トモ一朝戰爭勃發ノ如キ場合ニ在リテハ全資産ニ價格ノ低落ヲ見ルノ虞ナキニ非サルカ如シ獨塊其他ノ生命保險會社カ大戰後ノ經濟的影響ヲ被リ殊ニ露國公債ノ所有ニ因テ破滅ヲ招キタル者少カラサルカ如キハ將來ニ於テモ全然吾人ノ思考ヨリ脱却セシムル能ハサル事實ナリ況ンヤ其他ノ種類ノ投資ニ於テヲヤ集中ノ危険ヲ避ケテ成ルヘク多種多様ノ確實ト有利ヲ調和シタル方法ヲ求ムルヲ必要トス例ヘハ內國公債地方債若クハ外國公債ノ取得ハ各全資産ノ何分ノ一ニ限ルトスルカ如ク其他ノ有價證券ノ取得不動産ノ所有擔保貸付等ノ總金額ニ付テモ各制限ヲ設ケテ常軌ヲ守ラサルヘカラス是レ恰モ吾人カ飲食運動行樂ノ節制ト調和ヲ勉メテ身體ノ健全ヲ圖

ルカ如ク生命保險會社ノ保健法ナリ而シテ次ニ必要ナルハ利用場所ノ集中ヲ避クルコトニシテ例ヘハ確實ナル銀行ト雖トモ一所ニ集中シテ預金スルハ上記ノ如キ危険分配ノ理ニ反スルノミナラス弊害ヲ招クノ虞アリ貸付ノ如キモ一人ニ多額ノ貸付ヲ爲スハ不可ナリ有價證券ト雖トモ一會社ノ株式又ハ社債ニ集中スルトキハ之ト運命ヲ共ニスルノ結果ニ陷ルヘシ故ニ我保險業法施行規則ニ於テハ第十六條ヲ以テ無擔保貸付及ヒ不動産所有ノ總金額ヲ利用スヘキ全資産ノ各五分ノ一ニ制限スル外同一人同一物又ハ同一團體ニ關シテ五分ノ一以上ノ資産ヲ集中スルコトヲ禁セリ

第五 固定ヲ避クルコト

保險事業ハ銀行カ經濟恐慌ニ際シテ預金ノ取付ニ遭フカ如キ憂無キカ故ニ銀行ノ如ク其資産ヲ急速ニ回收換價セラレヘク利用スルノ必要ナク就中生命保險事業ハ戰爭大疫病等ノ稀有ノ異變ノ外一時ニ豫期以上ニ多額ノ保險金ヲ拂出スコト無キハ之ヲ火災保險事業ノ往往大火ニ遭遇シ海上保險ノ巨船ノ沈没ニ際會シテ縱令後ニ再保險者ヨリ回收スルモノアリトスルモ一時

巨額ノ保險金ヲ支拂ハサルヘカラサルニ比シテ大ニ趣ヲ異ニスルヲ以テ其財産ノ利用モ稍長期ニ亘ルヲ妨ケスト雖トモ甚シキ固定ハ素ヨリ之ヲ避ケサルヘカラス是レ社會經濟事情ノ變化ニ伴ヒテ時時刻刻更ニ確實ニシテ有利ナル利用法ヲ求メテ之ニ就カサルヘカラサルヲ以テナリ

第九章 簡易生命保險

前數章ニ於ケル記述ハ曩ニ本部第二章生命保險ノ種類中ニ説明シタル普通生命保險ノ方法即チ我國ニ於テハ明治十四年斯業創始以來民業會社組織ヲ以テ經營セラレタルモノヲ目標トシタルモノナルカ近時世界各國ニ於テ之ト對立スヘク發達シツツアル簡易生命保險ノ方法ハ其外形内容組織等ニ於テ自ラ之ト異ナル特色ヲ有スルモノナルヲ以テ終ニ臨ミテ其概要ヲ説述スルノ必要アリ而モ之ヲ一般的ニ詳論スルコトハ紙幅ノ許ササル所ニシテ之ニ對シテハ別ニ數種ノ專攻書冊アルコト第一編第四章第三節ニ紹介シタル如クナレハ茲ニハ之ヲ省略シ現ニ我國ニ於テ實施セララル所ノ官營簡易保險事業ヲ目的トシ

主トシテ之カ普通生命保險ト異ナル特徴ヲ捉ヘテ簡短ナル説明ヲ爲スニ止メント欲ス

第一節 略沿革

現代企業的生命保險ノ發生ニ先チテ存在シタル中世以前ノ類似制度例ヘハ「コレギア」ギルド友愛組合死亡財團等ノ經營ニ係ルモノハ生命保險ノ簡易ナル實行ナリト言フヲ得ヘシト雖トモ現時ノ簡易生命保險ハ普通生命保險ノ組織方法ヨリ變化脱胎シタルモノニシテ其起源ハ英國ニ在ルコト曩ニ少述シタル所ナリ即チ英國ニ於テハ既ニ千七百六年「アミケーブル、ソサエチー」生命保險ヲ開始シテヨリ同二十一年「ローヤル、エクスチェンジ」及ヒ倫敦「アツシユランス、コーボレイション」ノ二會社之ヲ兼營シ同六十二年ニハ「イクイテール」ノ設立アリ普通生命保險ハ漸次普及ヲ見ルニ至レリト雖トモ生命保險ノ本來ノ目的ハ寧ロ稍貧困ナル者ノ爲メニ養老ノ資ヲ蓄ヘシメ又ハ其遺族ノ爲メニ葬費並ニ一時扶助ノ料ヲ供スルニ在ルヲ以テ英國政府ハ千八百七年貧民保險局(The Poor's Assurance

Office)ト稱スル下級生命保險事業ヲ起シ郵便局ヲ機關トシテ之ヲ實行セント欲セシカ衆議院ノ特別委員會ニ附托セラレ而モ充分ノ贊成者ヲ得スシテ一旦廢棄ニ歸セリ然レトモ此企畫ハ後年再ヒ起生シテ千八百六十四年時ノ大藏大臣「グラッドストーン」氏郵便局營保險(The Post Office Assurance)ヲ提案シ議會ヲ通過セシメ今ニ至ルマテ繼續シツツアリ我國ノ簡易生命保險ハ全ク範ヲ之ニ採レリト謂フヘシ勿論英國ニ於テハ之ニ先チテ千八百五十四年世界ニ於ケル簡易生命ノ始祖ニシテ權威ト稱セラルル「ブルーデンシアル」生命保險會社此事業ヲ開始シテ年年益優勢ヲ示シ政府保險ヲ瞻若タラシメ爾來多數民間同業者ノ發展ニ壓セラレテ郵便局ノ生命保險業務ハ甚閑散ナルノ實況ニシテ之ヲ我國ノ簡易生命保險カ創立日淺クシテ異常ノ擴張ヲ得タルニ比スレハ寧ロ奇異ノ感ヲ催ササルヲ得サルナリ

北米合衆國ニ於テハ千八百七十五年「ニューワーク」市ノ「ブルーデシアル」會社之ヲ開始シ「ジョン、ハンコック」「メトロポリタン」等ノ會社次テ起リ斯業ノ隆盛宇内ニ冠絶セリ「メトロポリタン」最大ニシテ千九百二十二年末ニ於ケル契約件數二千七

百三十八萬餘保險金額七十八億弗ヲ超過セリ獨逸モ亦千八百八十年「ノルドステルン」會社ニ於テ之ヲ開始シ次テ「フリードリヒ、ウイルヘルム」「フィクトリア」等ノ有力ナル會社出テ埃太利佛蘭西濠太利亞等ニ在リテモ漸次此業務ヲ見ルニ至リシカ各急速ナル發達ヲ來シ保險金額ニ於テハ固ヨリ遠ク普通生命ニ及ハサルモ契約件數ニ於テハ遙ニ之ヲ凌駕シテ以テ此保險ノ一般的普及ヲ證明セリ

我國ニ於ケル此保險ノ創始ハ曩ニ少叙シタル如ク遞信省ニ於テ多年研究調査ノ上大正五年二月第三十七議會ニ簡易生命保險法案及ヒ簡易生命保險特別會計法案ヲ提出シ保險金額ノ最高限三百圓ヲ二百五十圓ニ修正セラレタル外原案ノ通過成立ヲ見タルヲ以テ爲替貯金局内ニ保險部遞信局内ニ保險課分掌局内ニ第四課ヲ設ケテ事務ヲ管理セシメ簡易生命保險令及ヒ同規則同審査會規程同特別會計規則其他必要ナル施行ノ細則ヲ制定シ同年十月一日ヨリ業務ヲ開始シ翌年七月簡易生命保險積立金運用規則ヲ公布シ其後諸種ノ細則及ヒ修正法規ヲ作り大正九年十月遞信省ニ簡易保險局ヲ設ケ大正十一年八月議會ノ

協賛ヲ得テ保險金額ノ最高限二百五十圓ヲ三百五十圓ニ改ムルニ至ル是等ノ詳細ハ簡易保險局統計年報ニ掲載セラレタリ(同年報ハ簡易保險局ヨリ毎年度末ニ發行セラルル所ニシテ制度ノ概要、沿革略誌、事業概説、事業統計、比率及ヒ平均、收支計算、圖表、死亡生殘表、保險金額表等ヲ掲記シタル必須ノ參考書類ナリ)

第二節 簡易生命保險ノ特徴

一般ニ簡易生命保險カ普通生命保險ト異ナレル點トシテ次ニ掲クル六箇ノ特徴カ擧ケラルルヲ以テ之ニ遵ヒテ我國ニ於ケル斯業ノ一斑ヲ説明セント欲ス

第一 保險金額ノ小ナルコト

職工其他ノ勞働者下級吏員等ニ生命保險ヲ普及セシメントスル爲メ保險金額ノ小ナルヲ以テ第一ノ特色トス我國ニ於テモ當初ハ之ヲ小口保險ト稱シタリ諸外國ニ於テモ一磅以下又ハ十弗以下ト言フカ如キ小額マテ保險シ遺族扶助ノ目的ヲ果サストモ葬費ノ支辨ニ補フ所アラントスル社會的需要ニ供シツツアリ我國ノ普通生命保險ハ近時三百圓以下五百圓以下若クハ千圓

以下ノ保險金額ヲ契約セサルニ至リタルヲ以テ簡易保險ハ三百五十圓以下二十圓マテノ契約ヲ締結シ若シ同一人カ二回以上ノ契約ニ依リテ誤テ此範圍ヲ脱シタルトキハ制限以外ノ保險金ハ效力ナシトセラル(簡易生命保險法第四條)我簡易生命保險ノ實際平均保險金額ハ大正十年度末ニ於テ男子百七圓七十錢女子百三圓三十錢ニシテ平均百五圓九十錢ナリ

第二 保險料ノ單位ニ據リテ契約スルコト

普通生命保險ニ於テハ被保險者ノ加入年齢ニ依リテ保險料ヲ配列シ保險金百圓又ハ千圓ニ對シ何程ト算出シタル保險料ヲ授受スルヲ普通トスト雖トモ簡易生命ニ在リテハ拂込ノ便宜ノ爲メニ保險料ノ單位ヲ定メ例ヘハ西洋ニ於テハ每週一志、十仙、又ハ一馬克ト言フカ如ク一定シ之ニ對シテ何歳ノ被保險者ハ幾何ノ保險金ヲ受クヘキヤヲ示セル表ヲ作成シ世俗ヲシテ容易ニ掛金ヲ爲スノ意ヲ起サシムルコトヲ計レリ我國ニ於テハ此單位ヲ月額十錢トシ之ニ對スル保險金額カ三百五十圓ヲ超過セサル限リ其倍數ヲ契約シ得ルコトトシ又保險金額カ二十圓ヨリ下ルコトヲ許ササルコトトセリ例ヘハ

三十歳ノ者カ月額十錢ヲ以テ加入スルトキハ終身拂込終身保險ニ在リテハ四十圓四十錢十年滿期養老保險ニ在リテハ十圓五十錢三十年滿期養老保險ニ於テハ三十一圓九十錢ノ保險金ヲ契約シ得ルカ如シ(簡易生命保險規則第二條別表第一)

第三 保險料ヲ細小ニ分割シテ拂込マシムルコト

勞働者ハ西洋ニ於テハ每週一回貸銀ヲ給セラルルヲ常トスルカ故ニ之ニ對應スル便法トシテ此保險ハ通常保險料ヲ週掛トシ間月掛ヲ制トスル所アリ普通ノ生命保險ニ在リテハ保險料ハ毎年一回ヲ原則トシ分割ヲ許スモ半年掛三月掛ニ限リ其以上ノ分割ヲ許ササルヲ以テ貯蓄ノ餘地無キ者ニハ之ヲ利用スルコト困難ナリ我邦ニ於テモ以前八月掛ヲモ見タリシカ今日總テノ保險會社ハ之ヲ廢止シ三月掛スラモ可成避ケントスルノ状態ナリ依テ我簡易生命ニ在リテハ月掛ノ制ヲ定メ以テ下級者ノ事情ニ適應セシメントセルナリ(最近普通生命保險會社ニテ月掛保險ナルモノヲ開始シタルモノアリ)

第四 身體診査ヲ行ハサルコト

普通生命保險ニ在リテハ加入ノ際醫師ヲシテ被保險者タルヘキ者ノ身體ヲ診査セシメ健康ナル者ヲ選擇シ又稍弱點アル者ニハ保險料增加其他ノ條件ヲ附シテ契約スルコト曩ニ詳述シタル如クナルカ簡易生命ニ在リテハ本來小額ナル保險ニシテ殊ニ加入者ハ閑時間ヲ有セサル勞働者多キヲ以テ一方ニハ煩瑣ト費用ヲ節約シ一方ニハ必シモ身體選擇ノ精緻ヲ要求セサル爲メ通常全ク醫師ヲ用ヒス契約取扱者ノ接見ニ依リテ外形上ノ健否ヲ觀察シ且本人ノ疾病ヲ覺知セステフ誓言ニ基キテ加入ヲ許スコトトセリ是レ此保險カ最廣ク發達スル所以ノ一ニシテ保險ニ加入スル意アル者ト雖トモ身體診査ノ手數ヲ厭ヒ或ハ婦女子ノ如キ羞恥ノ念ヨリシテ之ニ加入セサル者少カラサル普通生命保險ノ短所ヲ補フ效用アリ(簡易生命保險法第五條簡易生命保險ニ於テハ被保險者ノ身體診査ヲ行ハス)

第五 停止期間ヲ設クルコト

醫師ノ嚴密ナル診査ヲ行ハサル結果罹病者又ハ虛弱者ノ侵入スル間隙アルハ無論ナルヲ以テ之ヲ防止スルカ爲メニ停止期間ヲ設定スルヲ此保險ノ特

徴トス停止期間トハ加入後或期間内ニ限り死亡ニ對シテ保險金ヲ支拂ハサルモノニシテ此ノ如キハ生命保險ノ效用ヲ減殺スルノ嫌ナキニ非サルモ其輕便ト節約ハ利ニ對比シテ忍ハサルヘカラサル所ナリ我簡易生命保險ニ於テハ此期間ヲ二箇年ト定メ最初ノ一箇年以内ノ死亡ニ對シテハ拂込保險料ヲ返還シ次ノ一箇年間ノ死亡ニ對シテハ保險金ノ半額ヲ支拂フコトトセリ然レトモ不慮ノ災害並ニ傳染病ニ因スル死亡ハ既往ノ疾患ニ直接關係ナキモノナルヲ以テ之ニ對シテハ停止期間ヲ適用セス何時ニテモ保險金ヲ支拂フコトトセリ不慮ノ災害トハ疾病以外ノ身體損傷ニ基クモノニシテ傳染病ハ傳染病豫防法第一條ニ規定セラレタルモノ即チ虎列刺、赤痢、腸室扶斯、痘瘡、發疹室扶斯、猩紅熱、實布埤利亞、格魯布ヲ含ム及「ベスト」ノ八種ナリ簡易生命保險法第八條簡易生命保險令第八條

第六 保險料ノ集金ヲ行フコト

普通生命保險ニ在リテハ保險料ハ通常保險契約者ヨリ其加入セル會社ノ本支店又ハ代理店ヘ拂込ムモノトシ自身又ハ使ヲ以テ持參セサレハ振替貯金

小切手等ノ便宜ニ依リテ之ヲ爲スコトトセリ我國ニ於テハ斯業開始ノ初期ニ於テ保險會社側ヨリ訪問集金ヲ行ハサレハ多數契約ノ持續ヲ見ル能ハサル狀態ナリシヲ以テ今尙集金ノ習慣アリト雖トモ漸次之カ變革シツツアルカ如シ簡易生命保險ノ加入者ニ至リテハ到底零碎ノ小保險料ヲ頻繁ニ進ンテ會社ノ事務所ヘ拂込ムノ便宜ヲ有セサルヲ以テ諸外國ニ於テハ集金人ヲ派遣シ戶戶ニ就キテ徵收スルヲ絕對ノ要件トセリ我國ノ簡易保險ハ全國八千有餘ノ郵便局ニ於テ之ヲ取扱フカ故ニ加入者カ此ニ保險料ヲ拂込ムコト割合容易ナリト雖トモ而モ希望ニ由リテハ集金郵便ニ依リテ政府ヨリ集金スルノ便宜ヲ供シ又郵便貯金及ヒ振替貯金ヨリ振替拂込ノ方法ヲモ並用セリ(簡易生命保險規則第十二條)

第三節 簡易生命保險ノ缺點

簡易生命保險ハ前節ニ述ヘタル如キ特徴ヲ以テ生命保險ノ利用ヲ下級社會ニ普及セシメントスル所ノ有益ナル制度ナレトモ普通生命ト對比シテ保險契約

者ノ方面ヨリ並ニ保險事業ノ方面ヨリ不利トセラレル事情ノ存在セサルヲ得
 ス是等ハ歐米ニ於テモ常ニ斯業ノ缺點トシテ論議セラレルヲ以テ茲ニ之ヲ舉
 ケテ改善ノ資ニ供セント欲ス

第一 保險料高價ナルコト

物價ハ低廉ナルタケ需要者ニ取リテ利益ナルハ言ヲ俟タス殊ニ簡易生命保
 險ノ如キ下級者カ粒粒辛苦ノ結果ニ依リテ後圖ヲ爲スカ如キ奇特ナル行爲
 ニ對シテハ可及的負擔ヲ輕カラシムルヲ本意トス而モ事實ハ之ニ反シ簡易
 生命ノ保險料ハ一般ニ普通生命ニ比シテ割合高價ナルハ大ナル缺點トシテ
 非難セラレル所ナリ勿論高價ナルヘキ理由ハ充分存在スルモノニシテ其原
 因ハ第一一件ノ保險金額並ニ之ニ伴フ保險料額細小ナル上更ニ之ヲ數回ニ
 分割スルカ故ニ之ヲ取扱フ手數ノ費用ヲ自然割多ク要求セサルヘカラス即
 チ附加保險料ノ割合カ普通生命ニ於テ純保險料ノ二割前後ナリトセハ簡易
 生命ニ於テハ三四割以上ナラサルヲ得ス第二ニハ身體診査ヲ爲ササルコト
 ト被保險者ノ生計程度低キ爲メニ死亡率高キヲ免レサルヲ以テ純保險料ニ

モ多少ノ割掛ヲ爲スノ必要アルノ點ニ存ス是ニ於テカ簡易生命保險ハ營利
 的民業ニ適セス社會保險ノ一種トシテ國家若クハ富者級ノ負擔ヲ加ヘテ經
 營スヘシトノ說ヲ見ルニ至ル

第二 直チニ保險金ノ全額ヲ受クル能ハサルコト

停止期間ノ爲メニ例ヘハ二年以内ノ死亡者カ保險金ヲ全部又ハ一部受取ル
 能ハサルハ事實上苛酷ナル場合少カラス災害又ハ法定ノ傳染病以外ノ原因
 ト雖トモ被保險者ニ取リテ全然無自覺若クハ不測ノ事實タルコト頗ル多シ
 特ニ停止期間ノ將ニ盡キントスル前ノ死亡者ノ如キハ最懣察スヘキノ値ア
 ルモ而モ如何トモスル能ハス此般ノ事情ハ世人ノ最遺憾トスル所ナリ故ニ
 英國ノ郵便局營保險其他ニ在リテハ加入者ノ希望ニ應シ診査料ヲ負擔セシ
 メテ診査ヲ行ヒ合格ノ上加入シタル者ニ對シテハ停止期間ヲ適用セストス
 ルコト曩ニモ述ヘタル所ノ如シ之モ一法ナレトモ手續ノ複雑ヲ免レス可及
 的全額支拂ノ場合ヲ擴張シ急性疾患例ヘハ流行感冒肺炎腦膜炎腹膜炎產褥
 熱其他分娩ニ因スル疾患並ニ法規以外ノ傳染病ニ對シテモ全額支拂ヲ行フ

カ如キハ寧ロ有效ナル手段ナルヘシ

第三 利益分配ナキコト

生命保険ノ相互性ニ基キ普通生命保険ハ皆各保険契約ニ對シテ利益又ハ剩餘ノ分配ヲ行フモ簡易生命ニハ之レ無キヲ一般ノ習慣トス是レ無數ノ小額ナル各保険契約ニ對シテ微少ナル利益分配ヲ毎年行フカ如キハ計算記入通知授受等ニ手數ト費用ヲ要シ寧ロ損アリテ益ナキノ業ナリトノ理由ニ出ツルモノナリト雖トモ而モ保險業者カ利益ヲ壟斷シテ省ル所ナキハ斯業ノ本質ニ反シ殊ニ其社會性ニ悖ルトノ非難アリ現ニ米國ノ「メトロポリタン」ブルイデンシアル等ハ株式組織ヲ相互組織ニ變更シ自然剩餘金分配ヲ行フニ至レルヲ見ルモ此問題ハ適當ニ解決スルノ必要アリ毎年ナラストモ數年ニ一回決算ヲ行ヒ現金配當ニ代フルニ保險金増額ノ方法ヲ執ルカ如キハ適當ノ方法ニ非サルカ

以上ハ多ク保險契約者ニ取リテ不利トセラルル缺點ナリト雖トモ次ニ掲クルモノハ斯業經營上ノ弱點トシテ數ヘラルル所ノモノニシテ斯業者ノ不利ハ結

局加入者ノ損失トシテ轉嫁セラレサルヘカラサルモノナレハ大ニ研究改善ノ必要アルモノナリ

第四 解約多キコト

保險加入者カ中途ニ脱退スルコトノ不利ナルコトハ既ニ述ヘタル所ニシテ第一之ニ因リテ死後若クハ老後保險金ヲ獲ントスルノ善良ナル目的ヲ達スル能ハス第二ニ拂込タル保險料中ノ大ナル部分ヲ損シ第三ニハ往往再ヒ生命保險ニ加入スルヲ得サルノ状態ニ至ルコトアリ然レトモ保險業者ニ取リテハ解約ハ更ニ失望的ナル損害ニシテ幾多ノ經費ヲ投シテ斯道ノ宣傳勸誘ニ努力シ年年新ニ若干ノ契約者ヲ得テ事業ノ發展ヲ圖ルモ亦年年多數ノ解約者ヲ出セハ恰モ尺進尺退ノ觀アリテ事業ハ容易ニ發達セス保險契約者ニ拂戻スヘキ責任準備金中ヨリ解約ノ損害ヲ償ハシムヘク若干ノ控除ヲ爲スコト曩ニ解約價格ノ項ニ於テ説明シタル如クナレトモ此控除額ハ真正ノ收入ニ非スシテ募集費ノ支出及ヒ解約ニ因スル死亡率ノ増嵩ニ對スル補償ニ充テラルルノミ結局解約ハ第三者ヲ利シテ社會上勞力ト費用ノ徒消ニ歸ス

故ニ保險業者ハ最モ之ヲ恐レテ其防止ニ努力セサルヘカラス然ルニ外國ノ經驗ニ據レハ小口ノ生命保險ニハ解約多キヲ以テ斯業ノ一大弱點トシテ數ヘラレツツアリ是レ此種ノ生命保險ハ經濟的思想ト實力ニ乏シキ社會ノ人民カ無自覺ニ加入スルコト多キ結果ナリ但我簡易生命保險ニ在リテハ目今割合ニ解約少ク大正十年度ニ於ケル成績ニ就テ見ルニ解約及ヒ失效ノ同年度經過契約件數ニ對スル割合ハ百分ノ十強ニシテ同年度ノ新契約件數ニ對シテ百分ノ二十四強ニ達スルノミ民間生命保險事業ノ過大ナル解約ニ比スレハ却テ遙ニ良好ナル結果ヲ呈セリ(失效トハ保險料延滞ノ爲メ自然解約トナリタルモノニシテ經過契約件數トハ年始ト年末ノ現在件數ヲ平均シタルモノナリ)

第五 死亡多キコト

簡易生命保險ハ被保險者ノ身體診査ヲ行ハサル爲メ自然ト弱體者ノ多ク侵入スルヲ免レス加フルニ衛生營養醫治療養等充分ナラス且危險職業ニ従事スル者多キ階級ヲ網羅スル爲メニ死亡數多クシテ生命保險事業ニ期待セラ

ルル死差ヲ得ルコト難キノミナラス往往死亡超過ノ損失ヲ被リ斯業ノ基礎ヲ危クスルトノ懸念アリ之カ爲メニ死亡率高キ死亡表例ヘハ國民死亡表ヲ用ヒ尙其上ニ若干ノ安全割掛ヲ行フカ如キ處理法ハ曩ニ述ヘタル所ナルカ之カ爲メニ保險料高價トナリ之ヲ強弱ノ被保險者カ同等ニ負擔スルト云フ不公平モ發生スヘシ然レドモ民業保險ニ於テコソ其等ノ事情ヲ其弱點トセサルヘカラサルモ官公的施設ニ於テハ之ヲ緩和スル方法ト認容スヘキ根據ヲ發見スルコト難キニ非サルヘキナリ

第六 經費ノ割合高キコト

簡易生命保險ノ經營ハ費用ヲ要スルコト最多ク從テ事業ノ成功困難ナルヲ以テ諸外國ニ於テモ多クハ二三會社ノ獨占ニ歸セルノ觀アリ例ヘハ英ニ於テハ「ブルーデンシアル」米ニ在テハ「メトロポリタン」及ヒ「ブルーデンシアル」獨ニ於テハ「フィクトリア」ノ如キ他ニ多數ノ同業會社無キニ非サルモ嶄然トシテ追隨ヲ許ササルカ如シ是レ斯業ノ如キ薄利多賣ヲ要件トスルモノハ非常ナル大規模ヲ以テセサレハ償フ能ハサルノ證據タリ我國ニ於テモ既設ノ大生

命保險會社カ其整備シタル機關ヲ利用シテ之ヲ經營スルカ如キ場合ノ外ハ成功覺束ナシト謂ハサルヘカラス而モ我國ニ於テハ政府之ヲ獨占シ(簡易生命保險法第一條簡易生命保險ハ政府之ヲ管掌ス同第二條簡易生命保險事業ハ保險會社之ヲ營ムコトヲ得ス)全國既設ノ郵便局ヲ利用シ一時ニ大規模ノ經營ヲ行ヒ得タルカ爲メニ經費ヲ要スルコト意外ニ少ク開始ノ初年度ニ一般會計ヨリ補助ヲ受ケタルノミニテ爾後收支相償ヒ必要ナル責任準備金ノ外ニ若干ノ別途積立金ヲモ剩シ得タリト言ヘリ大正十年度ニ於ケル事業費ノ收入保險料ニ對スル割合ヲ見ルニ後者ノ一千五百六十六萬三千五百六十九圓九十錢ニ對シ三百七十萬四千四百九十二圓五十六錢ヲ費セルヲ以テ二割三分六厘ニ當リ所定ノ附加保險料(純保險料ノ平均三割ナルヲ以テ收入保險料ノ約二割三分ニ當ル)ヲ以テ償フノ時期ニ到達セリ

第四節 保險契約上ノ特色

簡易生命保險ノ契約條項ハ普通生命ニ比シ簡短ナルヲ趣旨トスルモ苟モ保險

契約タル以上ハ相當複雑ナル内容ヲ有セサルヲ得ス我國ノ簡易生命保險ハ保險者カ政府ナルカ爲メニ特ニ簡易生命保險法同保險令同保險規則ト言フカ如キ法律ノ規定ト商法保險法中ノ條項準用ニ依リテ對手間ノ權利義務ヲ定ムルコトトセリ然レトモ其内容ハ第六章ニ於テ説明シタル所ト大差ナキヲ以テ茲ニハ一一其條項ヲ舉示セス只民業普通生命保險ニ於テ見ルヲ得サル所ノ特異點ノミヲ掲ケントス

第一 保險金額及ヒ解約失效其他ノ返還金請求權ハ差押ラレサルコト

諸外國ニ於テハ普通生命ニ於テモ被保險者生前ノ債務ニ對シテ遺族ヲ保護スルノ法律アリ我國ニ於テモ一般斯業者カ夙ニ之ヲ要望セルハ曩ニ述ヘタル如クナルカ我簡易保險ハ此利益ヲ附與セラレ保險金ノミナラス解約失效返還金並ニ自殺其他ノ事故ニ因シテ死亡シタル爲メ政府カ保險金ヲ支拂ハス積立金ノミヲ支拂フ場合ノ金額ニ對シテモ差押ヲ禁止セリ(簡易生命保險法第十三條)

第二 戰爭危險ヲ無條件ニ引受クルコト

普通生命保險ハ戰爭變亂ニ因スル危險ヲ除外スルヲ原則トシ特別保險料ヲ拂込ミタル者ニ對シテノミ保險金ノ支拂ヲ爲スヲ例トセルモ我簡易生命保險ハ無條件ニ支拂ヲ爲スコトトセリ

第三 審査請求權ヲ附與スルコト

保險契約者又ハ保險金受取人カ保險契約主トシテ保險金受取ニ關スル異議ニ就テ政府ヲ相手取り訴訟手續ヲ執ラント欲スル場合アルヘキモ而モ彼等細民ニ僅少ナル保險金額ノ爲メ普通裁判上ノ手續ヲ要求スルハ苛酷ナルヲ以テ特ニ簡易ナル裁判機關ヲ設ケ先ツ其裁決ヲ請求セシメ尙不服ナル場合ニ普通民事訴訟ヲ提起スヘキ旨ヲ定メタリ(簡易生命保險法第二十九條)此裁判機關ハ簡易生命保險審査會規程ニ依リテ其組織ヲ定メラレ政府ノ各省局長參事官及ヒ學識經驗アル者合計十二名ノ委員ヲ内閣ニ於テ任命シ無稅無形式ヲ以テ簡易ニ保險契約者又ハ保險金受取人ノ訴ヲ聽カシムルコトトセリ

第四 印紙稅ノ免除

相互保險會社ニハ營業稅ヲ課セス又其保險證券保險料領收證ノ如キモ會社内部ノ行爲ニシテ商取引ノ目的ニ非サルヲ以テ收入印紙ノ貼付ヲ要セサルコトトセルカ我簡易生命保險ハ一ハ政府ノ事業タルト一ハ細民ノ保險タルトノ關係ヨリ總テノ書類ニ印紙稅ヲ課セサルコトトセリ(簡易生命保險法第三十二條)

第五 郵便物無料ノ特典

我簡易生命保險ハ逓信省ニ屬シ全國郵便局ヲ機關トシテ經營スルコト通信貯金ノ事務ト同一ナルヲ以テ之ニ準シテ其事務ニ關スル郵便物ヲ無料トセリ英國郵便局營保險ニ在リテモ然リ結局被保險者ニ對スル恩典トナルモノナレハ適當ノ處置ナリト謂フヘシ

第六 團體契約ノ便宜

官公署、會社、工場其他ノ團體ニ勤務スル使用人カ多數一團トナリテ加入スルコトヲ獎勵センカ爲メニ政府ハ團體特別取扱規則ナルモノヲ定メ十人以上ノ契約者カ同時ニ申込ムトキハ代表者ヲ定メテ一定ノ期日ニ保險料ヲ取纏

メ拂込マシメ又被保險者ヲシテ一郵便局員ニ面接セシムル手續ヲ省略スルヲ許スカ如キ便法ヲ設ケタリ是亦特色ノ一ト謂フヘシ

第五節 我國簡易生命保險ノ種類及ヒ基礎

簡易生命保險ハ理論上第二章ニ掲記シタル雜多ノ種類ヲ營ミ得ルモノナルモ細民ノ需要ニ對シテ最適切ナルハ終身保險ト養老保險ナルヲ以テ我簡易生命保險令ヲ以テ此二種トスル旨ヲ定メ終身保險ニ在リテハ保險料ノ拂込方法ニ由リ終身拂込十年拂込十五年拂込及ヒ二十年拂込ノ四種トシ養老保險ニ在リテハ十年滿期ヨリ毎五年ヲ隔テテ四十年滿期ニ至ルマテノ七種類ヲ定メ加入シ得ル被保險者ノ年齢ハ十二歳以上六十歳以下トセリ此外諸外國ニ於ケルカ如ク幼者ノ死亡保險モ簡易保險ノ方法ヲ以テ實行スヘク年金保險教育結婚資金保險ノ如キモ細民ヲシテ之ヲ利用セシムルトキハ社會上ノ利益少カラサルヘキヲ以テ將來簡易保險ノ範疇ニ容レテ其業務ヲ擴張スルヲ可ナリトス

保險料算出ノ基礎タル死亡生殘表ハ曩ニ掲ケタル内閣統計局第二表ノ男女表ヲ基礎トシ其死亡率ニ二割ヲ増加シテ作製シタルモノニシテ二割ハ無診查ノ危險ヲ顧慮シタル安全割掛ナリ而シテ豫定利率ハ年三分五厘ナルヲ以テ純保險料ハ既ニ相當高價ナリ其上平均三割ノ附加保險料ヲ加ヘタレハ保險料高價ニ過クトノ非難アリ保險料率引下ノ問題ハ將來研究スルノ價值アリト言フヘシ(簡易生命保險令第一條乃至第七條)

第六節 我國簡易生命保險事業ノ財政

我簡易生命保險業務ノ收支狀態カ比較的好望ニシテ現ニ相償ヒテ多少ノ積立金ヲ爲シ得ルニ至レルコトハ前記ノ如クナルカ未タ之ヲ以テ樂觀スルヲ許ササルナリ契約件數ノ急速ナル増加ハ既ニ附加保險料ヲ以テ經費ヲ支辨シ得ルノ域ニ達セリト雖トモ死亡率ノ前途ニ就テハ慎重ニ注意スルノ必要アリ智識ノ比較的進歩セサル此保險ノ加入者間ニ在リテモ所謂逆選擇ノ影響ハ明ニ實現シ即チ大正十年度統計年報ノ示ス所ニ據ルモ同年度末ノ平均保險金額ハ百

五圓九十錢ナルニ死亡者ノ平均保險金額ハ百六圓八十錢ナリ又終身保險ト養老保險ノ各實際死亡率ヲ比較セルヲ見ルニ後者ハ千分ノ九強ニ過キサルニ前者ハ千分ノ十五弱ニ上レリ保險金ノ最高限度ヲ三百五十圓ニ擴張シタル今後ニ就テハ或ハ一層人意的危險ノ増大ヲ見ルヤヲ計ルヘカラス又從來我國ノ成功シタル生命保險會社ハ巨額ノ資金ヲ蓄積シ其利用益ニ依リテ附加保險料又時トシテ純保險料ノ缺處ヲモ充填スルヲ得タリシカ政府ノ簡易保險ハ資產收益ニ於テ民間事業ニ劣ル所アリ例ヘハ大正十年度末ニ於ケル利子收入ハ五十八萬千三百三十九圓ニシテ之ヲ九年度末ト十年度末ノ責任準備金額ヲ平均シタルモノ即チ經過資產額千九百八十八萬九千五百十八圓ニ割當ツレハ二分九厘強ニ過キス豫定利率ノ三分五厘ニモ及ハサルカ如キハ獨リ政府ノ不利益ノミナラス結局多數ナル加入者ノ損失ニ歸スルモノナレハ此點ニ就テ當局者ノ一大覺醒ヲ希望セサルヲ得ス當初政府カ此保險ヲ提案シタルトキニハ之ニ依テ集積シ得タル資産ヲ社會政策ノ目的ニ利用スル旨ヲ聲明シ以テ一般ノ好感ヲ博セントシタルカ識者ハ之ヲ非難シテ富者ノ資金例ヘハ公債ヲ低利ナル社會事

欠

欠

大正十二年五月二十八日印刷
大正十二年五月三十一日發行

訂改 保險學綱要 第三冊

定價 金貳圓五拾錢



著作者 粟津清亮

發行者 波多野重太郎

印刷者 小笠原煤芳

發兌元

東京神田區仲猿樂町 電話二二五四番
振替東京六五五六番 九段二六七六番

巖松堂書店

關西發賣所
滿鮮發賣所

大阪市北區電話北局一六五三番
曾根崎上三丁目 振替大阪三一九七二番
朝鮮京城 電話本局一六六六番
本町二丁目 振替京城二四五四番

巖松堂大阪店
巖松堂京城店

91
196

終

